

SYLLABUS

講義要項

2021

看護科



学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

目 次

教育課程について	1
看護科 1年生	23
看護科 2年生	71
看護科 3年生	121

教育課程について

1. 看護の基本概念

本校の看護についての考え方は、看護の対象である【人間】、その人間を取り巻く【環境】、人間と環境との相互作用が影響する【健康】、そして働きかけとしての【看護】の4つを基本的な概念とする。また、看護を専門的知識と技術をもって行なう「看護専門職」についても次のように考える。

【人間】

- 1) 人間は生物体、生活体の統一体である。
生物体とは、人間としての発達や生活過程の共通性をあらわす。
生活体とは、その人らしい特殊性・個別性をあらわす。
- 2) 人間はいのちの誕生から自ら取り巻く環境との相互作用の中で生活し、常に成長、発達を続けている。
- 3) 成長、発達過程においては、様々な危機課題に対処し、環境に適応しながらいのちを営む個別的な存在である。
- 4) 人間は自らの責任において意思決定し、自己実現を目指している。
- 5) 人間は生命が尽きても人間関係の中で社会的存在として生き続ける。

【環境】

- 1) 環境は内部環境(固体)、外部環境(自然、社会、文化的環境)の総体である。
- 2) 環境は人間と人間を取り巻く全てであり、相互作用の中で人間の健康に影響している。
- 3) 現在の自然環境は、環境破壊、環境汚染、地球の温暖化等多くの問題を有している。
- 4) 社会環境も同様に、少子高齢化、国際化、情報化、核家族化、ライフスタイルの変化、心の問題の複雑化等の問題を有している。

【健康】

- 1) 健康は単に病気ではないという状態ではなく、身体的、精神的、社会的に調和がとれた状態である。
- 2) 健康状態は、固体要因と自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用において成り立つ。
- 3) 健康から健康障害、死という連続的な段階は流動的であり、健康は自己管理(セルフケア)の元に維持される。
- 4) 健康は人間の基本的権利であって、個人特有のものであり、人それぞれが自ら創るものである。

【看護】

- 1) 看護はあらゆる発達段階、健康段階における生活者である個人、家族、集団を対象とする。
- 2) 看護は対象となる人と、看護者との人間関係を基盤として行う。
- 3) 看護は生命力の消耗を最小にするように生活過程を整えることである。
- 4) 看護は健康の保持、増進、疾病予防、健康の回復、苦痛緩和、その人らしく死を全うする過程での援助である。
- 5) 看護は専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームとの協働に際しては、調整的役割をもつ。
- 6) 人間の生命、尊厳、権利の尊重は看護実践者にとって社会的責務であり、高い倫理観と、高度な知識・技術を必要とする。

2. 看護専門職

- 1) 看護師は、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話または診療の補助を行なう。（保健師助産師看護師法第5条）
- 2) 専門職の条件として、専門分野の体系的知識、公共の利益への貢献、自律的实践、独自の倫理綱領をもつことが挙げられる。
- 3) 看護専門職に求められるものは、専門性、自律性、倫理性、判断力、実践力である。自律した看護職は、①倫理的な行動がとれる ②的確な判断ができる ③行なった判断や行動を説明できる ④他の職種の意見や助言を受け止め、看護者の仕事に生かせる ⑤必要な主張ができる といった実践力を持つ。
- 4) 看護師は療養生活支援の専門家として、専門的な知識と技術と人間への深い洞察力を持って、より安全で質の高いかつ効率的な看護を提供する役割を持つ。

各分野の考え方

【基礎分野】

人間とは何かその人間の生活、幅広いものの見方考え方を学ぶ分野として位置づけ、各分野の基礎となり人として成長する礎となる分野である。

【専門基礎分野】

基礎分野で考え捉えた人間の健康、疾病、障害という観点から知識を獲得し、臨床で活用可能なものとするために専門分野とのつながりを意識して学んでいく。

【専門分野Ⅰ】

各看護学及び在宅看護論の基盤となる。

専門分野Ⅱに共通する基礎的知識、技術を学ぶ。

健康障害を持つ対象の理解、健康障害を捉える看護の視点を学び、その上でアセスメントと看護の方法を理解していく。

【専門分野Ⅱ】

専門分野Ⅰから発展してそれぞれの対象の特性を踏まえ、その対象に応じた看護の方法を学ぶ。

【統合分野】

在宅看護論は専門分野Ⅰ、Ⅱで学習した既習の知識、技術を統合し在宅という「場」に応用する。そのため専門分野の上部に位置づける。

看護の統合と実践については専門分野のみならず、基礎、専門基礎分野をも統合しチーム医療及び他職種との協働の中で看護を実践できる力を養う。

科目設定理由

【基礎分野】

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づけ幅広いものの見方、考え方、そして看護職に必要な人間の理解につながる分野として 13 単位 360 時間で以下の科目を設定した。人間を理解するに当たり人間を取り巻く社会、心理、教育的観点など学ぶ必要性が高い点から「社会学」「心理学」「教育学」を設定した。看護は人と人との関わり合いの中で成り立っていくことから、人間関係成立の基盤としての「コミュニケーション論」を設定した。さらに、看護を思考するにおいて科学的、論理的思考が重要であるために「論理学」「情報科学」、国際社会に対応した「英語」「英会話」、看護職自ら健康を維持・増進するための活動やレクリエーション、パフォーマンス力向上（聴く力、伝える力）めざしての「体育」「野外活動」を設定した。

更に、人間生活と環境、社会との関連性を学び専門基礎分野へとつなげて行く為に「環境生態学」「家族社会学」を設定した。

構成および計画

<基礎分野> 13 単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
科学的思考 の基盤	論理学	1	30	1(30)		
	情報科学	1	30	1(30)		
人間と生活・社会	文学	1	30	1(30)		
	心理学	1	30	1(30)		
	コミュニケーション論	1	15	1(15)		
	環境生態学	1	30	1(30)		
	保健体育	1	30	1(30)		
	野外活動	1	15	1(15)		
	教育学	1	30	1(30)		
	英語	1	30	1(30)		
	英会話	1	30		1(30)	
	家族社会学	1	30	1(30)		
社会学	1	30		1(30)		

【専門基礎分野】

専門基礎分野は看護学を学ぶうえで基本となる「人間の構造と機能」「疾病の成りたちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の3つの教育内容から構成されている。

人体を系統立てて理解し、健康・疾病に関する観察力、判断力を強化できるよう「解剖生理学」「生化学」「栄養学」を含んだ科目設定とした。

疾病の成り立ちと回復の促進については、人体の構造と機能が傷害された原因や誘因を学び、治療や回復過程を理解するための基礎的知識として「疾病と治療（循環・呼吸・血液）（消化・代謝）（運動・脳神経）（腎・泌尿・免疫）（感覚器）」の5単位120時間、「病理学」「臨床薬理学」「微生物学」を各1単位30時間で構成した。

健康支援と社会保障制度については、人間を生活者としてとらえ、その人にとって意味のある支援が提供できるよう、保健医療福祉に関わる基礎的知識として「公衆衛生学」「生命倫理」

「社会福祉」そして生活者としての衣・食・住を学ぶ「生活科学」を設定した。尚、生命倫理は学生の問題意識が高まるであろう3年次に置いた。以上17科目で510時間とした。

構成および計画

<専門基礎分野> 21 単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（概論）	1	15	1(15)		
	解剖生理学Ⅱ（生命維持機能1）	1	30	1(30)		
	解剖生理学Ⅲ（生命維持機能2）	1	30	1(30)		
	解剖生理学Ⅳ（生命を活用する機能）	1	30	1(30)		
	解剖生理学Ⅴ（体の保護と種の保存機能）	1	15	1(15)		
	生化学	1	30	1(30)		
	栄養学	1	30	1(30)		
疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30	1(30)		
	疾病と治療（循環・呼吸・血液）	1	30	1(30)		
	疾病と治療（消化器・代謝）	1	30		1(30)	
	疾病と治療（運動・脳神経・眼）	1	30		1(30)	
	疾病と治療（腎・泌尿・免疫）	1	15		1(15)	
	疾病と治療（感覚器）	1	15		1(15)	
	臨床薬理学	1	30		1(30)	
健康支援と 社会保障制度	微生物学	1	30	1(30)		
	医療概論	1	15	1(15)		
	公衆衛生学	1	30		1(30)	
	生命倫理	1	15			1(15)
	社会福祉	1	30		1(30)	
	関係法規	1	15			1(15)
	生活科学	1	15	1(15)		

【専門分野Ⅰ】

基礎看護学は、専門分野Ⅱ及び統合分野の基礎となる理論や概念、科学的根拠を伴った看護技術を学ぶ位置づけとする。

基礎看護学は、各看護学及び在宅看護論の基礎となる対象の健康状態の理解や生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。さらに、看護師として倫理的な判断と実践につながる基礎的能力を養う必要がある。講義は「看護学概論」「基礎看護技術」「臨床看護技術」で構成。基礎看護技術としては、人間関係成立及び対象把握の技術として「面接とフィジカルアセスメント」、医療環境を整える技術として「診療、処置に伴う技術」「与薬の技術」をおき、他「看護過程展開の技術」及び「生活を整える技術ⅠⅡ」で構成した。看護学を学ぶ学生が最初に学習する専門科目であり、看護を総合的に理解することを目指す内容とした。

「看護学概論」 1単位 30時間

最初に学習する専門科目であり、看護の基本概念をふまえ、人間の健康の保持増進にかかわる看護の役割と機能を幅広く学ぶものとした。看護は、心理学や社会学の分野で実証された理論を人間理解のツールとして活用する一方で、看護独自の理論の開発も進んでいる。ナイチンゲールの看護の考え方をはじめとするニード論や人間関係論を学び、人間理解と看護観が深められる内容とした。さらに、近年の高度医療や生命の尊厳、患者権利、医療事故など看護者の倫理綱領に基づいて専門職としての自覚と責任が感じられるよう、医療・看護倫理を強化する内容を包含するものとした。

「基礎看護技術」 7単位 210時間

看護は実践科学である。そのときに人間をどのようにとらえ、健康上の問題を分析するのか、科学的に実証された枠組みの種類や活用方法を学ぶ。次に看護を実践するための方法として、基本となる技術を学んでいくが、看護技術の定義は「看護の目標達成の為に科学的根拠に基づいた具体的な方法であり、トレーニングの反復により習熟度が増すものである」とし、「人間関係成立及び対象把握の技術」「医療環境を整える技術」「看護過程展開の技術」「生活を整える技術Ⅰ（環境・清潔・衣）」「生活を整える技術Ⅱ（運動・休息・食・排泄）」を位置づけ校内実習及び演習を取り入れ、技術修得を強化する内容を包含した。

「臨床看護総論」 1単位 30時間

「臨床看護技術」 1単位 30時間

健康障害をもつ対称を理解し、状態に応じた看護の基本を理解する内容を1単位として設定した。さらに、健康障害をもつ対称の健康問題として起こりやすい症状に対する看護について学ぶ内容とする。対象や病気の種類にかかわらず健康障害時に発症し看護による症状緩和を図る看護技術として、呼吸機能障害、運動機能障害、嚥下機能障害を取り上げアセスメントし看護として対象の苦痛を軽減し、安全を守るための方法を学ばせる内容として科目を設定した。

「基礎看護学実習」 3単位 135時間

臨地実習とは、看護の対象である患者に対して、講義・演習・校内実習で学んだ知識と技術を統合し、対象からの反応を得ながら看護を提供し看護について学ぶものである。専門分野Ⅰにおける臨地実習は、後に続く専門分野Ⅱにおける成人、老年、小児、母性、精神の各看護学実習及び統合実習における在宅、看護の統合実習の基礎となる実習である。看護の対象である人間を捉え、講義や校内実習で学んだ基礎知識や、看護技術を統合して初めて対象に援助を実施することにより、対象理解と技術の修得を目指す。看護実践を段階的に学べるよう基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲを設定した。

「基礎看護学実習Ⅰ（人間関係成立・対象の基本的ニーズの把握）」（1単位 45時間）

看護の対象である患者の療養環境を理解し、人間関係成立と講義や演習、校内実習で学んだ基礎知識を統合し対象の理解につなげていく。

「基礎看護学実習Ⅱ（対象の日常生活援助の実施）」（1単位 45時間）

患者にとって必要な日常生活援助を安全・安楽に実践する内容として1単位で設定した。基礎看護学実習Ⅰをふまえ、対象の状態に応じたより良い看護技術が提供できるよう、技術チェックを実施した上で実習を行う。

「基礎看護学実習Ⅲ（看護過程の展開・対象の日常生活援助の実施）」（1単位 45時間）

看護の問題解決方法としての看護過程を用いて、疾病や障害によって生じた生活の不自由さを理解し、対象の状態に応じた日常生活援助の看護技術を提供し、看護を展開する力を育む内容として設定する。

基礎看護学実習は学生個人の持つ豊かな感性を広げるとともに、看護の本質に触れ、自己の看護観を持つための第一歩となるようにする。

構成および計画

< 専門分野 I > 13 単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
基礎看護学	看護学概論	1	30	1(30)		
	基本技術	1	30	1(30)		
	面接とフィジカルアセスメント	1	30	1(30)		
	生活を整える技術Ⅰ（環境・清潔・衣）	1	30	1(30)		
	生活を整える技術Ⅱ（運動・休息・食・排泄）	1	30	1(30)		
	診療、処置に伴う技術	1	30	1(30)		
	与薬の技術	1	30		1(30)	
	看護過程展開の技術	1	30	1(30)		
	臨床看護総論	1	30	1(30)		
	臨床看護技術	1	30		1(30)	
【臨地実習】 基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1(45)		
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	1(45)		
	基礎看護学実習Ⅲ	1	45		1(45)	

【専門分野Ⅱ】

「成人看護学」

成人期は、青年期、壮年期、向老期と長期に及び、社会的役割を担う発達段階である。その発達段階の特徴として、成人期にある人は、自立・自律した存在であり基本的には自分のことは自分で出来る、意思決定できる存在として捉えた。たとえ病気になったとしてもセルフマネジメントできる存在として捉え、積極的に自分の治療法の選択や養生法に責任を持ち努力できる（アドヒアランス）存在として看護する。

成人期の死因上位は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患である。青年期の自殺、壮年期男性の自殺も増加して、生活習慣やストレスは成人の健康に大きな影響を及ぼしている。一方、一般病院の平均在院日数はますます短縮化傾向にあり、入院中の患者は健康の危機的状況（急性期あるいは終末期）であることが多い。また、成人期の役割を果たすために、外来で治療しながら社会生活をおくっている場合も多い。入院中の危機的状況や苦痛の緩和への対応、及び、成人の健康を脅かしている生活習慣病やがん、機能障害などをかかえて生活する人に応じた看護が必要とされる。

以上をふまえ、成人看護学の講義は計 6 単位 180 時間を設定した。

「成人看護学概論」 1 単位 30 時間

成人期にある人の理解のため、成人期の特徴や発達課題、役割、健康問題の概要を学ぶ。また、成人看護学を通して、成人の特徴的な健康問題と現代の社会状況との関連についても人口の動向・平均余命などとともに、法律や政策を含めて理解することが必要である。成人に特有な健康問題の背景として、現代社会、就業、職業病、などが身体的にどのように影響しているか、社会情勢も含めて生活習慣を理解し、多様な健康観をふまえて健康教育・患者教育を提供してゆく必要がある。

「健康危機状況にある成人の看護」 1 単位 30 時間

成人期における状況的危機は、外傷や疾病などによる身体の危機であり、生命の危機状況につながっていく。生命の危機状況は、成人でも個人のセルフケアだけでは回避することはできない。健康の危機状況は、生命の危機と心理的な危機、社会的危機に陥り健康レベルの分岐にある状況である。健康の危機状況にある人の看護は、身体への侵襲、検査、手術、薬物療法を受ける患者の生命の危機に対応するための救急救命法、合併症予防法の理解が必要になる。また、生命状態の危機に対しての、適切な観察や看護判断、患者の状態に応じた看護技術を学び、健康危機状況にある成人の看護を学習する内容とした。

「侵襲的治療を受ける成人の看護」 1 単位 30 時間

近年、科学技術の発展・進歩に伴い低侵襲性の手術が行われるようになった。しかし、手術による身体侵襲があることには変わりはなく、そのような侵襲的治療を受ける患者の特徴や、合併症予防を含めた看護、患者家族を支える看護について学び、周手術期の専門性や看護の役割・援助方法を理解する。そして、おそらく人生の中でほんの数回の経験であろう身体侵襲を伴った治療を受ける患者及びその家族の立場を慮った看護の実践に結びつけていく。

「セルフケア再獲得に向けての成人の看護」 1単位 30時間

成人期にある人が、何らかの病気や外傷などにより健康問題を抱え、今まで出来てきたセルフケアが出来なくなることや、人の世話にならなければならないことは極めて苦痛なことである。自分の意思で生活してきた人が、それまでのセルフケアを見直し、生活の変更を余儀なくされ、治療のため通院や入院することによって、家族の生活や職場も影響を受け支障が生じることとなる。そのため、少しでも早くセルフケア能力を再獲得し、元の生活に戻れるようにしたいと望むのは当然である。セルフケア再獲得に向けての看護は、再びその人らしく生きられるように援助することである。セルフケア再獲得が必要な成人期にある人を理解し、中途障害者となる心理をふまえ、看護を学習する内容とした。

「セルフマネジメントを必要とする成人の看護」 1単位 30時間

セルフマネジメントとは、生活者として日々の生活を疾病の症状や徴候と折り合いをつけながら生活していく知恵と能力を身に付けていくことである。看護者の役割は、患者が自己管理できるよう効果的な患者教育を担うほか、長期にわたる療養生活を支援することにある。成人期にある人は、個別の生活スタイル、価値観を持ち、ライフサイクルの中核を担う人であるため、単に、一般的な知識や技術を伝える指導ではなく、病とともに生きることを「支援」する視点が不可欠である。また、わかっているが行動できない、継続できないという患者の心理を理解し、患者自身が自分の健康上の課題に対して解決できるよう支持していくことが必要である。そこで、事例を用い演習を取り入れた内容を設定した。

「緩和ケアを必要とする成人の看護」 1単位 30時間

看護は、対象者がいかなる状態にあろうと、その人の安全性、安楽性、自律性の確保にむけて援助を行い、QOLの保証をめざす。生命を脅かす疾病は患者と家族の身体的、精神的、社会的、霊的苦痛、すなわち全人的苦痛にさらされ、あらゆる制限と危機をもたらす。それは、成人期の人の社会的役割や責任を果たすことに制限をもたらすだけではなく、人が自分らしく存在することと、その表現及び自分らしさの希求の制限をももたらす。さらに、家族成員の抱える苦痛も大きい。緩和ケアとは、その個人と家族の孤独や病気の進行に伴う不安や恐れを癒し、可能な限り長く安楽に、身体症状を緩和し、病を癒し、自立を維持することにより死を尊厳あるものとするケアである。緩和ケアを必要とする成人期にある人の特性を考慮し、患者が自己の望みは何かを見極め、苦痛の緩和とその個人がもつ力を支えるための看護を学ぶ内容を設定する。

「成人看護学実習」 6単位 270時間

成人看護学実習では、主に入院患者を対象に看護を行う実習とする。多様な健康状態・障害に対するアセスメント力、及び実践力の育成を目指す。特に成人期は健康障害がその人の社会生活に影響を及ぼす。そこで、それに伴う対象の思いを理解して援助ができる必要がある。

実習科目は、講義と同様の枠組みとした。成人看護学実習Ⅰは、「対象の健康レベルに応じた看護実習」。成人看護学実習Ⅱは、慢性疾患などで自己管理が必要な患者、何らかの障害を抱えセルフケアが必要な患者を対象に「セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護実習」。成人看護学実習Ⅲは、ICU、CCU、救命救急センターなどで生命の危機状況にある患者や手術療法を

受ける患者を対象に「健康危機状況にある成人の看護・侵襲的治療を受ける成人の看護実習」6単位とした。

「老年看護学」

成長発達の最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかに幸せな死を迎えられるべき段階である。長い人生経験と知恵を尊敬し、個人の生き方・価値観を尊重し個別な存在として理解する必要がある。しかし、家族形態の変化に伴い看護学生の多くは高齢者と接する機会が少ない。現代社会は機械化、スピード化し、年配者を尊重したり、畏敬の念を抱きにくい環境にある。そのような若者中心の文化の中で、まだ体験の無い老年期の対象についての看護を学ぶことは有用である。加齢現象は身体生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼす。また、高齢者の健康障害は、複数の疾患を抱えていることに伴いより個別的で複雑である。加えて、恒常性維持機能の低下によって、合併症、急性増悪、慢性化、廃用症候群等の問題が発現しやすく健康問題が複雑化・長期化しやすい。超高齢社会に突入し、看護に求められる役割はますます重要となっている。高齢者やその家族、さらに社会のニーズに応じた看護を提供するためには、看護基礎教育で老年看護学への興味と関心を育てていく必要がある。看護においては高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力とアセスメント力、活動耐性の評価方法、機能低下防止、個別の生活援助に関する知識・技術が必要とされることから高齢者の生活に主眼を置いた科目を設定した。

「老年看護学概論」 1単位 30時間

看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」を高齢者に特化することで、老年看護に必要な学習内容を抽出した。老年期を生きる人の特徴とその生活、健康の段階に応じた看護の場と機能、高齢者を取り巻く家族や社会システム、そして、高齢者の健康を理解するために加齢に伴う変化を学ぶことで、高齢者の看護について関心と理解を持てる内容として設定した。

「高齢者の生活と社会」 1単位 15時間

高齢者の生活と社会については、特に心理的側面を中心とし、最新の高齢社会白書などをもとに、少子高齢社会の傾向や高齢者の生活実態を学ぶ。また、高齢者の家族関係や地域社会の関係をはじめ、対人関係の基本的スキルについての知識を示す。さらに、対話形式の演習を通して、高齢者やその家族についての理解を深められる内容として設定した。

「高齢者の日常生活援助」 1単位 30時間

加齢変化が高齢者の生活、ことに睡眠、活動、食、清潔、排泄、に支障をきたしやすいことを理解し、高齢者の生活機能や日常生活の視点から日常生活を支える必要性を学ぶ内容とした。

「高齢者の健康障害時の看護」 1単位 30時間

高齢者の健康障害は非定型的で、複数の疾患を独立的かつ併存的に抱えている。些細な健康障害が高齢者の ADL に及ぼす影響は大きく、家族への影響も大きい。したがって、高齢者の健康障害の特徴から考え、認知機能障害、リハビリテーション、手術療法に関わる看護の理解が深められる内容とした。

「老年看護学実習」 4単位 180時間

老年看護学実習Ⅰ：「生活機能低下に応じた高齢者の看護」1単位 45時間

加齢現象は身体生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼす。また、老化や疾病は即高齢者の生活にも影響を及ぼす。そのため長年の生活が習慣化し個人の価値観が確立している高齢者は QOL を低下しやすい。そこで早期の臨地実習において、日常生活に支障をきたしている高齢者を受け持ち、対象のライフイベントを捉え、個性や高齢者像、それを踏まえた看護への活用について考え、老年看護の原則について学び自己の老年観を育む内容として設定した。

老年看護学実習Ⅱ：「健康レベルに応じた高齢者の看護」3単位 135時間

高齢者の健康障害は、非定型的で複数の疾患を独立的かつ併存的に抱えている。健康問題が複雑化・長期化しやすい特徴から、些細な健康障害が高齢者の ADL に及ぼす影響、家族への影響も大きい。あらゆる健康段階にある対象の加齢現象の把握と疾病の理解を深め、健康レベルと成果を見定め QOL を考えた看護の実践を目指したい。

「小児看護学」

小児看護学は、変化する社会の中で子どもの人権を守り、子どもと家族の置かれている状況を的確に判断し、成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を考えることを学習する。小児を取り巻く状況として、児童虐待の増加や校内暴力、不登校などの問題が深刻化している。一方、地域社会に目を向ければつながりの希薄さから、親の間に子育ての負担感や悩みが広がっている。小児期はヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう小児と家族（養育者）を支援することを目的として科目を置いた。

「小児看護学概論」 1単位 30時間

人間としての出発点である小児期にある子どもや子どもを取り巻く社会環境の変化を理解することは、小児看護を学ぶ上で極めて重要である。

小児との接触の機会が少なく、こどもを具体的にイメージできない状態の学生の背景をふまえ、看護の対象としての小児と小児を取り巻く環境、小児看護の概念について学ぶ内容を設定する。

「小児の健康障害」 1単位 15時間

小児の健康障害は、一時的な苦痛経験だけでなく生涯にわたる障害を残すこともある。さらに、その障害が小児の成長発達のどの時期に生じたのかによって、その後の経過や将来に影響を及ぼす。したがって、それらの障害を最小限にとどめるための適切な援助が求められる。そのためには、専門的な知識と技術、判断力・実践力が必要となってくる。既習の小児看護学の内容を活用しながら、健康障害のある小児と家族が生活・療養するための看護について学ぶ。

「小児の発達段階に応じた看護」 1単位 30時間

小児期は、ヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう小児と家族（養育者）を支援することを目的としている。そのために「小児看護学概論」の小児の理解をもとに、各発達段階にある小児の健康増進とその家族への看護を、各期の生活の特徴とともに学ぶ。

「小児の健康状態に応じた看護」 1単位 30時間

小児と家族にとって、病気や入院は大変な出来事であり、小児と家族に与える影響と看護を理解することは小児看護を学ぶ上で重要なことである。小児の健康状態もさまざまであり、その状態に応じた看護を学んでいく必要がある。そのため、内容として、急性状態にある小児と家族、長期的経過をたどる疾患をもつ小児と家族、終末期にある小児と家族、先天的な問題をもつ小児と家族、心身障害のある小児と家族、在宅医療・通院治療を受ける小児と家族の看護が理解できる内容にした。

「小児看護学実習」 2単位 90時間

小児看護学実習の主要な場である臨床現場は、出生率の減少に伴い入院患児が減少し、入院期間も短縮化してきている。そのため、子どもと向き合い看護ケアを行う機会、症例数も少なくなってきたのが現状である。こうした子どもをとりまく現状を踏まえ、「健康な乳幼児の保育」と「健康障害のある小児の看護」の視点から学習を深めたい。健康の回復及び保持増進に向けての援助方法や健康を障害された小児と家族への援助を行うことにより、未来を担う子どもたちの健全な育成を支援できることを念頭に設定した。

「母性看護学」

母性看護学の特徴として、「次世代への生命の引継ぎ」に焦点をあてることと、「生理的現象ではあるが看護を必要とする人を対象とする」ことが考えられる。

一つ目の特徴については、生物学的な種族保存だけではなく、その世代の個人の生命、尊厳、人格を重視することである。母性看護学の学習内容を進めていく過程では、生命への畏敬の念、神秘性に触れることも多く、必然的に生命倫理、看護倫理との関連を深く学ぶ機会ともなる。

特徴の二つ目は、母性看護学の対象に関することである。母性看護学ではその対象を新しい家族の誕生を迎える人たちを中心に、生命を次世代へ繋いでいく人々ととらえている。したがって、妊娠・分娩・産褥期にある人とその家族、胎児、新生児を中心に、これから妊娠期を迎える女性、パートナーとなる男性、そして生殖に関連する問題を抱える人たちも、母性看護学の対象ととらえている。また、妊娠・分娩・産褥期にある人は、病気ではなく生理的過程にある。健康ではあるが看護を必要とする人の理解を深めるためにウェルネス看護診断の考えを取り入れることとして、内容を組み立てた。

「母性看護学概論」 1単位 30時間

母性看護学は看護の対象である人間を「性と生殖に関する健康と権利—リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ」の視点からとらえ、人間のライフサイクルを通して健康を維持・増進することを目的としている。人間が持つ母性・父性の役割、機能を健全に発揮できるようにするために、胎児期から乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、向老期に至るまでの女性とその家族を対象として関わる科目である。少子高齢社会の中で、次世代への健康への支援は重要な社会問題となっている。国においても様々な政策を策定し、安心して子どもを産み育てることが出来る環境づくりを目指している。このような背景をふまえて、母性看護の概念、特徴、対象、及び対象をとりまく社会の変化等について触れる。また、生命の誕生に関与する看護学であることから、生命の尊厳、人権の尊重についても学ぶ内容とした。

「妊娠期・分娩期の看護」 1単位 30時間

妊婦・産婦の看護では、まず妊婦を理解するために、妊娠各期における胎児の発育と、妊娠が母体に及ぼす身体的・心理的影響を学ぶ。また、妊婦の夫や家族をはじめとする社会的な側面について学び、対象の理解を踏まえた妊婦の看護や保健相談の方法を具体的に学ぶ。産婦の理解のためには、分娩の整理と経過、心理的特徴、家族を含めた看護を学ぶ。

「産褥期・新生児・ハイリスクの看護」 1単位 30時間

産褥期は生理的变化ではあるが、看護の視点でケアする必要度の高い時期である。正常を逸脱しているわけではないため、問題指向型の看護過程では思考整理がしにくいいため、ウェルネスの視点でとらえた看護を学ぶ。新生児期は、母親との関係が深く、この時期の母子関係はその後の新生児の成長に大きく影響するといわれていることから、母子相互作用を活用した看護を学ぶ。ハイリスク状況にある人、およびその正常経過を逸脱した人の理解は、既に学んだ正常経過を振り返り、その関連で逸脱した症状を理解できるようにした。ハイリスクに陥っている対象の心理面への配慮は対象となる人の立場にたった支援が出来るよう内容を精選した。

「生殖機能障害のある患者の看護」 1単位 30時間

女性の生殖器疾患患者の特徴を理解し、対象の健康障害をアセスメントして必要な看護を理解する。また、生殖機能障害が性役割、女性の生き方、日常生活に及ぼす影響を考え、看護者としての支援方法を学ぶ。

「母性看護学実習」 2単位 90時間

母性看護学は、生命を未来に存続させるという種族保存（生殖）機能が遂行できるよう健全な母性の育成に関わる援助活動である。実習では、妊娠・分娩・産褥という母性の生理的、心理的变化を理解し、母体の進行性、退行性変化が順調に進むように援助することを念頭に「妊娠期の看護」「分娩期の看護」「産褥期の看護」「新生児期の看護」を設定した。また、生命の誕生の場面、その後の母親と新生児の関わり方を見聞し援助することで、生命が誕生し育っていくことへの尊厳を認識する機会としたい。

「精神看護学」

現代社会は精神的ストレスに満ちた社会であり、社会の近代化、合理化、管理化が進み、一層精神保健の重要性が増してきている。若者の引きこもりや、小中学生の不登校、摂食障害、うつ病やうつ状態、自殺、アルコール依存症等、心の問題や病気でケアを必要としている人々が増加している。厚生労働省はこれまでの「4大疾病」に精神疾患を加えて「5大疾病」として、重点的に対策を進めていくことに決めた。

精神看護学では、あらゆる領域でさまざまな健康水準、発達段階にある人に対して、精神看護を展開するための基礎的知識と技術を教授するとともに、学生が自己理解・他者理解する力を伸ばすことをねらいとし、計4単位105時間の科目設定とする。

「精神看護学概論」 1単位 30時間

精神看護学を学ぶに当たって、精神（心）の健康の概念、構造と機能、発達を理解することは欠かせない。精神の不健康、障害、精神に障害のある人の精神の健康など、精神（心）の健康の定義や精神的健康のとらえ方は、学生自身が考え方を深めていくための基盤となる重要な概念となる。人間の精神は、生物学的、心理学的、社会的要因をはじめとして文化的要因や環境的要因など、多くの要因が複雑に絡み合って発達する。そこで、フロイト、エリクソンの理論を使用し、性的発達、発達段階での各発達課題、母親（重要他者）との相互作用の視点で理解できるよう学ぶ、さらにオレム・アンダーウッド理論を用いて、セルフケア能力の維持増進を目標に、自己決定能力、セルフケア能力に視点を当てて設定した。

「精神に障害をもつ人の理解」 1単位 15時間

精神入院患者の割合が最も多い統合失調症、神経性障害を中心として精神障害の現れ方とその特徴、原因、診断、治療について理解できるよう学ぶ。

「精神看護の基本技術」 1単位 30時間

精神看護は人々の心に焦点を当て、健康の保持増進、疾病の予防、回復に向け様々な働きかけを行っている。対象によっては、対人関係やコミュニケーション領域で困難を経験している場合がある。このような時は相手の行動の意味を確認しながら、ケアを提供する、あるいは自立に向けた歩みを助けるといった、自我を脅かさないあるいは自我を強めるかかわりが求められる。必要とされる治療的コミュニケーション技術や看護カウンセリングを学ぶ。

「精神に障害をもつ人の生活と看護」 1単位 30時間

精神に障害のある人は、精神疾患と障害を併せ持ち、生活のしづらさ、生き辛さを抱えている。彼らを生活者としての視点でとらえ、自立に向けた援助を考えていくことの必要性を学ぶ。

取り上げる疾患は、入院患者数の最も多い統合失調症、外来患者数の多い気分障害、その他人格障害、アルコール・薬物依存症、神経症、発達障害の6つとする。

「精神看護学実習」 2単位 90時間

精神看護学実習では精神に障害をもつ人の看護を中心に学ぶ。

精神保健医療福祉は、入院医療中心から地域生活中心へと転換され、精神に障害を持つ人がその人らしく自立した生活を営めるよう、さまざまな施策が進められている。そこで、「精神障害の治療を必要とする対象への看護」及び「精神障害をもちながら地域で生活する対象の理解」を念頭に設定した。精神看護の実践は、患者との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、セルフケアの維持向上に向けた援助を行うことである。そこで、患者の自己決定能力、セルフケア能力の獲得・維持に視点をあてた学習ができる内容とした。

構成および計画

<専門分野Ⅱ> 38単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
成人看護学	成人看護学概論	1	30	1(30)		
	健康危機状況にある成人の看護	1	30		1(30)	
	侵襲的治療を受ける成人の看護	1	30		1(30)	
	セルフケア再獲得に向けての成人の看護	1	30		1(30)	
	セルフマネジメントを必要とする成人の看護	1	30		1(30)	
	緩和ケアを必要とする成人の看護	1	30		1(30)	
老年看護学	老年看護学概論	1	30	1(30)		
	高齢者の生活と社会	1	15	1(15)		
	高齢者の日常生活援助	1	30		1(30)	
	高齢者の健康障害時の看護	1	30		1(30)	
小児看護学	小児看護学概論	1	30	1(30)		
	小児の健康障害	1	15		1(15)	
	小児の発達段階に応じた看護	1	30		1(30)	
	小児の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)	
母性看護学	母性看護学概論	1	30	1(30)		
	妊娠期・分娩期の看護	1	30		1(30)	
	産褥期・新生児・ハイリスクの看護	1	30		1(30)	
	生殖機能障害のある患者の看護	1	30		1(30)	

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
精神看護学	精神看護学概論	1	30	1(30)		
	精神に障害を持つ人の理解	1	15		1(15)	
	精神看護の基本技術	1	30		1(30)	
	精神に障害を持つ人の生活と看護	1	30		1(30)	
【 臨地 実習 】	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90		2(90)
		成人看護学実習Ⅱ	2	90		2(90)
		成人看護学実習Ⅲ	2	90		2(90)
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	1	45		1(45)
		老年看護学実習Ⅱ	3	135		3(135)
	小児看護学	小児看護学実習	2	90		2(90)
	母性看護学	母性看護学実習	2	90		2(90)
精神看護学	精神看護学実習	2	90		2(90)	

【統合分野】

「在宅看護論」

在宅看護は疾病や障害の予防活動や、福祉的な生活支援活動も内包する地域での他領域、広範囲にわたって提供される看護である。具体的には、健康回復のためのリハビリや悪化防止のための看護を中心に、終末期看護までの医療的意味合いの中での、質の高い看護活動が必要となる。また、臨床から在宅へのケアマネジメントや継続看護、地域における人々の当たり前の生活事象の中にある意義や価値観に気づき、人間としての存在や生活の奥深さを理解し、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。また、在宅における家族は、療養者・障害者の家族ではなく、家族そのものを一単位として捉え、支援していく必要がある。

以上の在宅看護を理解し実践するためには、在宅における基礎知識・技術・態度を統合し、生活の場における在宅看護をイメージして主体的に学習することが出来るよう構築していく。

「在宅看護概論」 1単位 15時間

看護師が捉えるべき「生活」と「生活の場」における背景と対象と社会資源で構成し、在宅看護の目的を明らかにする内容を設定した。

「在宅看護技術」 1単位 15時間

在宅で健康障害をもちながら療養している人の生活の場に訪問して看護を提供する際、療養者、家族に受け入れてもらえるための基本としてのマナーの大切さ、会話の仕方や良い人間関係を築く技術を学ぶ。

「在宅療養者の健康状態に応じた看護」 1単位 30時間

在宅看護の基本に基づき、対象の生活に合わせた生活支援技術（日常生活援助技術、医療処置技術）を学ぶ。また、在宅ではさまざまな健康状態の対象をかんごするが、その中で、終末期にある療養者を取りあげ在宅の終末期看護の基本を学ぶ。

「在宅看護過程」 1単位 30時間

在宅看護の特徴が理解できるような事例を提示し、在宅療養者の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護展開ができるように内容を設定する。特に自宅看護は、生活の場に一人で訪問するため、確かな知識・判断力・予測力とともに看護者の主体性が求められる。講義においても、課題について学生が主体的に考える機会を多く設定する。

「在宅看護論実習」 2単位 90時間

高齢化や疾病構造の変化に伴い病院だけでなく、病院から在宅へと連続した看護の必要性が高まってきている中で地域にいる看護の対象者にも眼を向けた実習を行う必要がある。その人の生活基盤の上に立って在宅で療養する人と家族を理解し、健康の向上や健康問題解決のための援助方法を学ぶ。また、社会資源の活用や多職種の人々との連携についても考える機会とするため、「健康保持・増進・疾病予防のための援助」と「地域で生活する人々のセルフケア支援のための援助」を念頭に設定した。

「看護の統合と実践」

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する内容である。卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用していくことができる内容として設定した。

「診療の補助技術における安全」 1単位 30時間

医療・看護におけるアクシデントの中で、患者の生命に直接影響する内容として薬物に関することである。診療補助技術として、臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全で確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。そこで、演習を通して、ハイリスク環境下での危険認識力と危険回避のための判断力を高めることを目的として3年次の臨地実習が進行する時期に設定した。

「臨床看護の実践」 1単位 15時間

医療技術の高度化が進む中、看護に求められる診療補助技術も高度化している。今までの実習中では習得が困難であった状況を演習・校内実習で設定し（不足の事態への対応、複数の課題への対応、優先順位の判断）統合実習前に強化するよう設定した。

「看護研究」 1単位 30時間

臨地実習を通して見出した疑問を取りあげ、研究する方法を理解する。そして研究をまとめ、発表することで論理的思考や研究的態度を学ぶ。

「看護管理と国際協力」 1単位 30時間

看護の基礎教育では、チームの一員として看護師の役割を理解し行動できることが求められる。そのためには、看護師がチームとする病院や看護部門について学び医療・看護がめざすものを踏まえて、日常の看護を実践する考え方を理解しなければならない。そこで、病院や看護の理念に合わせ、患者満足と従業員満足を高める環境づくりの考え方や、「看護サービスの管理」について理解を深める内容設定とした。

国際協力は、専門職である看護師に求められている、人々の健康と生活の向上に向けた「社会への支援」を基本とし、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術、国際貢献についての基礎的な理解を深める内容とした。

構成および計画

<統合分野> 12単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
在宅看護論	在宅看護概論	1	15		1(15)	
	在宅看護技術	1	15	1(15)		
	在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)	
	在宅看護過程	1	30		1(30)	
看護の統合と実践	診療の補助技術における安全	1	30			1(30)
	臨床看護の実践	1	15			1(15)
	看護研究	1	30			1(30)
	看護管理と国際協力	1	30			1(30)
【 臨地 実習 】	在宅看護論	在宅看護論実習	2	90		2(90)
	看護の統合と 実践	統合実習	2	90		2(90)

教育課程

基礎分野から、専門基礎分野、専門分野I・IIへと学習を積み上げ、統合分野で、学びを総括していきます。
 それぞれの分野は相互につながりを持ち、看護師に必要な知識や技術を効果的に学ぶことができます。

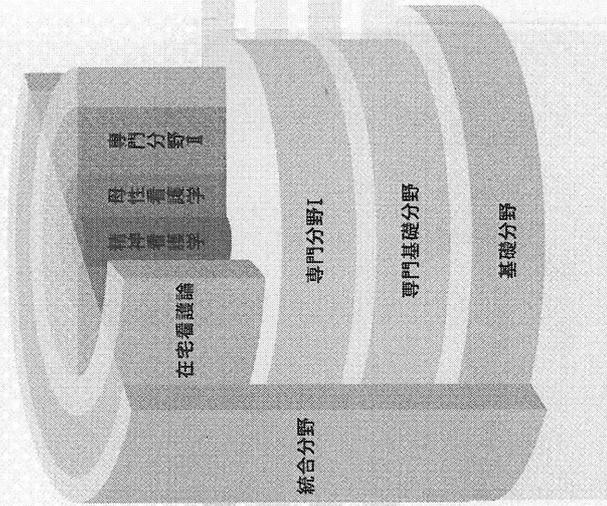
統合分野

共通授業

全分野を統合し、
 看護が実践できる力を養う分野

在宅看護概論、在宅療養者の経過状態に応じた看護、在宅看護過程、看護研究、看護管理と国際協力、在宅看護論実習、統合実習 他

構造図



健康水準別の看護を学習

共通授業

健康危機状況にある成人の看護、緩和ケアを必要とする成人の看護、高齢者の日常生活援助、小児の健康状態に応じた看護、妊産期・分娩期・産後期の看護、精神に障害を持つ人の生活と看護 他

専門分野II

看護学の土台

共通授業

看護学概論、基本技術、生活を営む技術、診療・処置に伴う技術、看護過程展開の技術、臨床看護総論、基礎看護学実習 他

専門分野I

専門分野の基礎となる

共通授業

解剖生理学、生化学、栄養学、病理学、疾病と治療、微生物学、臨床薬理学、医療概論、公衆衛生学、生命倫理、社会福祉、関係法規、生活科学 他

専門基礎分野

看護師となるための土台

共通授業

論理学、情報科学、文学、心理学、教育学、コミュニケーション論、環境生態学、保健体育、英語、家族社会学 他

基礎分野

看護科 1年生

看護科 2021年度生カリキュラム

履修方法	科目内容	教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計																						
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数																					
登録指定科目	基礎科目	基礎分野	基礎科目	論理学	演習	1	30					1	30																				
				情報科学	演習	1	30							1	30																		
				文学	講義	1	30							1	30																		
				心理学	講義	1	30							1	30																		
				コミュニケーション論	講義	1	15							1	15																		
				環境生態学	講義	1	30							1	30																		
				保健体育	演習	1	30							1	30																		
				野外活動	演習	1	15							1	15																		
				教育学	演習	1	30							1	30																		
				英語	講義	1	30							1	30																		
				英会話	演習			1	30					1	30																		
				家族社会学	講義	1	30							1	30																		
				社会学	演習			1	30					1	30																		
				小計						11	300	2	60		13	360																	
				登録指定科目	専門科目	専門基礎分野	専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ(概論)	講義	1	15					1	15																
								解剖生理学Ⅱ(生命維持機能1)	講義	1	30							1	30														
								解剖生理学Ⅲ(生命維持機能2)	講義	1	30							1	30														
								解剖生理学Ⅳ(生命を活用する機能)	講義	1	30							1	30														
								解剖生理学Ⅴ(体の保護と種の保存機能)	講義	1	15							1	15														
								生化学	講義	1	30							1	30														
								栄養学	講義	1	30							1	30														
								病理学	講義	1	30							1	30														
								疾病と治療(循環・呼吸・血液)	講義	1	30							1	30														
								疾病と治療(消化器・代謝)	講義			1	30					1	30														
								疾病と治療(運動・神経・眼)	講義			1	30					1	30														
								疾病と治療(腎・泌尿・免疫)	講義			1	15					1	15														
								疾病と治療(感覚器)	講義			1	15					1	15														
								臨床薬理学	講義			1	30					1	30														
								微生物学	講義	1	30							1	30														
								医療概論	講義	1	15							1	15														
								公衆衛生学	講義			1	30					1	30														
								生命倫理	演習					1	15			1	15														
								社会福祉	講義			1	30					1	30														
								関係法規	講義							1	15	1	15														
								生活科学	講義	1	15							1	15														
								小計						12	300	7	180	2	30	21	510												
								登録指定科目	専門科目	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅰ	看護学概論	講義	1	30					1	30												
												基本技術	演習	1	30							1	30										
												面接とフィジカルアセスメント	演習	1	30							1	30										
												生活を整える技術Ⅰ(環境・清潔・衣)	演習	1	30							1	30										
												生活を整える技術Ⅱ(運動・休息・食・排泄)	演習	1	30							1	30										
												診療・処置に伴う技術	演習	1	30							1	30										
												母業の技術	演習			1	30					1	30										
												看護過程展開の技術	演習	1	30							1	30										
												臨床看護総論	講義	1	30							1	30										
												臨床看護技術	演習			1	30					1	30										
												基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45							1	45										
												基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45							1	45										
												基礎看護学実習Ⅲ	実習			1	45					1	45										
												小計						10	330	3	105		13	435									
												登録指定科目	専門科目	専門分野Ⅱ	専門分野Ⅱ	成人看護学概論	講義	1	30					1	30								
																健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30					1	30						
																侵襲的治療を受ける成人の看護	演習			1	30					1	30						
																セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習			1	30					1	30						
																セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習			1	30					1	30						
																緩和ケアを必要とする成人の看護	講義			1	30					1	30						
																老年看護学概論	講義	1	30							1	30						
																高齢者の生活と社会	講義	1	15							1	15						
																高齢者の日常生活援助	演習			1	30					1	30						
																高齢者の健康障害時の看護	講義			1	30					1	30						
																小児看護学概論	講義	1	30							1	30						
																小児の健康障害	講義			1	15					1	15						
																小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30					1	30						
																小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30					1	30						
																母性看護学概論	講義	1	30							1	30						
																妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30					1	30						
																産褥期・新生児・ハイリスクの看護	演習			1	30					1	30						
																生殖機能障害のある患者の看護	講義			1	30					1	30						
																精神看護学概論	講義	1	30							1	30						
																精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15					1	15						
																精神看護の基本技術	演習			1	30					1	30						
																精神に障害を持つ人の生活と看護	演習			1	30					1	30						
																成人看護学実習Ⅰ	実習			2	90					2	90						
																成人看護学実習Ⅱ	実習					2	90			2	90						
																成人看護学実習Ⅲ	実習					2	90			2	90						
																老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45					1	45						
																老年看護学実習Ⅱ	実習					3	135			3	135						
																小児看護学実習	実習					2	90			2	90						
																母性看護学実習	実習					2	90			2	90						
																精神看護学実習	実習			2	90					2	90						
																小計						6	165	21	675	11	495	38	1,335				
																登録指定科目	専門科目	統合分野	統合分野	在宅看護概論	講義			1	15			1	15				
																				在宅看護技術	演習	1	15							1	15		
																				在宅療養者の健康状態に応じた看護	演習			1	30					1	30		
																				在宅看護過程	演習			1	30					1	30		
																				診療の補助技術における安全	演習					1	30			1	30		
																				臨床看護の実践	演習					1	15			1	15		
																				看護研究	演習					1	30			1	30		
																				看護管理と国際協力	演習					1	30			1	30		
																				在宅看護論実習	実習			2	90					2	90		
																				統合実習	実習			2	90					2	90		
																				小計						1	15	3	75	8	285	12	375
																				合計						40	1,110	36	1,095	21	810	97	3,015

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、97単位(3,015時間以上)の修得が必要。

科目名	論理学			担当教員	米田和美		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	非常勤講師として、大学・専門学校で論理的思考に関する授業を担当。経験をもとに授業を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力、事柄を正しく解釈できる思考を訓練する。							
1. 論理的思考を養う。							
1) 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。 「一文一義」の文が書けるようになる。							
2) 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。							
2. 将来、研究論文を書くための文章構成法を身につける。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 論理的思考を養う。		1) 論理的な思考				演習	10h
		2) 文の七原則				演習	8h
		3) 事実の読み方 (いつ、どこで、誰が、誰に、何を、 どうしたのか)					
2. 論文としての文章構成法 を理解する。		4) 主張と理由				演習	10h
		5) 論評、意見文、研究論文を批判的に検討する					
		方法					
		1) 資料文を読み、意見文を書く					
		2) 意見文を批判的に検討する					
		例文 (悪文) を書き直す					
		総括					1h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		○		資料 論理的思考ファイル (貸出)			
試験等	提出物	○					
	レポート						
	随時試験						
	試験	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況 (授業態度)	○					
	その他 ()						

科目名	情報科学			担当教員	三好善彦		
単位	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 科目のねらい 情報科学の概念及び情報処理に必要なパソコンの基礎知識・活用技術を学ぶ。加えて、看護における情報収集と活用について学ぶとともに、情報倫理の現状と必要性を理解できる。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 情報の概念が理解できる	1.	コンピュータ基礎知識、コンピュータで扱う情報、ハードウェアとソフトウェア、コンピュータの歴史				講義	2 h
2. Word 機能を理解し活用できる	2.	インターネットの活用、インターネットを使った情報検索、電子メール				演習	2 h
	3.	文章作成、Word の基本操作、書式の設定				演習	6 h
3. Excel 機能を理解し活用できる	4.	文章作成、表作成、行列セルの設定				演習	8 h
	5.	文章作成、画像、図形の挿入、Word ページ設定、課題作成					
	6.	表計算、Excel の基本操作、セルの書式設定					
	7.	表計算、計算式、関数の挿入、セルのコピー、相対参照、絶対参照					
4. 看護における情報収集と活用の理解	8.	表計算、グラフ作成、グラフの書式設定				演習	8 h
	9.	表計算、データの並べ替え、表示形式、ページ設定、ワードとエクセルの連携、課題作成					
	10.	看護と病院情報システム、看護に必要な情報検索、情報の引用					
5. PowerPoint 機能を理解し活用できる	11.	プレゼンテーション、PowerPoint のスライドの作成、レイアウト、デザインの設定				演習	4 h
	12.	プレゼンテーション、画面切り替え、アニメーション、スライドショー					
6. 情報倫理の現状と必要性を理解できる	13.	プレゼンテーション、グループ、テーマの決定				講義	1 h
	14.	プレゼンテーション、資料作成、スライドのインポート				演習	4 h
	15.	プレゼンテーション全体発表、相互評価				試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		<input type="radio"/>		プリント			
試験等	提出物	<input type="radio"/>		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート						
	随時試験	<input type="radio"/>					
	試験						
	平常の授業状況（授業態度）	<input type="radio"/>					

科目名	文学			担当教員	寶槻たまき		
単位	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	中学・高校の国語科教員として文章の読解や作文指導を行ってきた。 この経験をもとに、日本語力・読解力を育成する。				
□科目のねらい							
1. 言語とは何か、表現とは何かを考え、言葉とコミュニケーションの重要性を確認する。 2. 社会人として必要な語彙力・文章力を身につける。 3. 敬語表現の基本を理解し、正しく使えるようにする。 4. 生・死・医療・看護・社会・言語・文化などに関する優れた評論の読み、人生の意義や目的を考える。 5. 小説の読解を通じて、人間への理解を深める。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 言葉とコミュニケーションの重要性を理解する。		1) 敬語の基本を学ぶ。 2) 正しい敬語を使って手紙を書く。				講義	4 h
2. 文章の正しい書き方を理解する。		3) 文の構造や文章表現上の留意点を確認する。 (悪文訂正問題) 4) 小論文の基本を学ぶ。 5) レポートの基本を学ぶ。				講義・演習	9 h
3. 評論の読解と感想		6) 評論の読解と感想 竹内敏晴「癒える力」				講義・演習	6 h
4. 小説の読解力と感想		7) 小説の読解と感想① 北条民雄「いのちの初夜」 8) 小説の読解と感想② ドリアン助川「あん」				講義・演習	8 h
5. 漢字力を身に付ける。		9) 漢字問題				演習	1 h
		総括					1 h
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況		○		プリントを配布します。			
試験等	提出物	○		□参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況(授業態度)	○					
	その他(漢字力)	○					

科目名	心理学			担当教員	室田洋子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学の学生相談室カウンセラー30年、心理臨床相談で家族相談30年 余り相談員として勤めた。その経験をもとに講義を行う。				
<p>□授業の目的</p> <p>人はどのように生き、考え、集うのか。なぜ、傷つき、感じ、行動するのか。心理学では、人の心のさまざまな問題を、人間を理解するという視点に立ちつつ検討する。</p> <p>そのなかで、人の性格や気質、人格とはどのような内容か、またそれはどのようにして形成されるのか、心の深層の存在とその働き、心理的存在・社会的・身体的存在としての「自分」が被害をうけそうになった時に人が心の反応としておこす様々な防衛機制的行動、思うようにいかない状況（要求阻止）におかれた時に人がとる適応行動と不適応行動、それを人はどのようにして乗り越えるのかについて具体的な事例を多く取り入れながら考察する。</p> <p>また、自分をとりまく状況や環境の認知を人はどのようにしているのか、その反応や行動の人による違いを知ることを通して、人の心と行動の不可思議さ面白さを探求する。</p>							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 人間への理解を深める		<p>心理学(psychology)とは 人間を科学する学問の目的・対象・方法 心理学の諸領域と関連諸科学 人間を理解することのむつかしさ</p> <p>性格(personality) 人格・性格・気質・パーソナリティ…定義 性格を知る…類型論 ガレノスの類型</p> <p>性格の類型論 クレッチマーの類型論 シェルドンの類型論 ユングの類型論</p> <p>あなたの性格は？ 向性検査の実施 Y G 性格検査の実施 検査実施の基本的条件</p> <p>心の深層を考える ふと洩らす言葉や行動の意味 フロイトの深層心理学 ユングの深層心理学</p> <p>行動のしくみ 行動の発生…人の嘘を電流ではかる 人間の行動、動物の行動 感情と行動の関係</p> <p>要求と動機づけ 一次的要求と生理的ホメオスターシス 二次的要求と家族ホメオスターシス 誘因と誘発性…ふかし芋とフランス料理</p> <p>要求阻止（行動の障害） フラストレーションを生じさせる要因 要求水準とその変化 再行傾向とツアイガーニック効果</p> <p>要求阻止の時ひとはどう行動するか 代償行動と代償価 葛藤（コンフリクト） 心的飽和</p>				講義	28h

		<p>適応・不適応 要求阻止における適応行動 要求阻止における不適応行動 適応異常・精神障害</p> <p>自己防衛機制 セルフ・ディフェンス・メカニズムとは 合理化、逃避、抑圧、投射、反動形成… 人格形成と要求阻止耐性</p> <p>環境の認知 レマン湖のほとりで旅人は何をみたのか 心理的環境と物理的環境 知覚の諸特性</p> <p>知覚の体制—ものの認知 図と地 ウェルトハイマーの法則 知覚の適応性</p> <p>総括</p>			1 h
			試験		1 h
□成績評価の方法			□使用テキスト		
出席状況		○	『図解・心理学』室田洋子他 学術図書出版		
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ		
	レポート				
	随時試験				
	試験	○			
	平常の授業状況（授業態度）				
その他（ ）					

科目名	コミュニケーション論			担当教員	鈴木晶夫		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	心理行動学の教員として33年間大学に勤務し、授業実践や各種看護研修講師としてコミュニケーションに関わり、その実践例と経験を基に講義する。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人間の多様な心理・行動的側面を理解し、実際場面、臨床場面に応用できる能力を養う。そのために、特に、コミュニケーションを中心に講義する。日常での対人場面、臨床実習や面接場面、実際のクライアントとのやりとりに必要なコミュニケーション手段に関する基本的な問題について講義する							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 人間の心理・行動的側面を理解する。		1. コミュニケーション入門 1) ヒトのものの見方、ヒトの見方 2) 情報伝達手段 3) 記号、誇示				講義	7 h
2. コミュニケーション手段の基本を理解する。		2. 非言語情報伝達手段 その1 (顔情報、表情、表情表出、視線) その2 (空間行動、接触) その3 (姿勢、匂い、身振り) 3. 精神分析、交流分析入門 4. カウンセリングの技法 その他に適宜トピックスをとりあげ、講義および討論の材料を提供する。				講義	7 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況							
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況 (授業態度)	○	資料配付				
	その他 (授業の振り返り、演習小テスト)	○					

科目名	環境生態学			担当教員	渡邊泉・大地まどか		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	<渡邊>環境化学者としてフィールドでの調査、化学分析に従事し、東京農工大学に21年間勤務。それら実例・経験をもとに講義を行う。 <大地>海洋環境学の研究者として、人工化学物質の環境動態および生物影響に関する研究に従事。実例・経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的 <渡邊>地球環境問題の解決と生態系の保全を考える上で、まず、地球環境の現状を把握し、なかでも「化学物質による影響と対策」に主に焦点を当て、1) 3・11後から現在の環境問題と、2) 地球環境問題の把握、そして3) 過去の公害事件をケースから考えたい。環境問題の解決のためには、まず現状の地球環境を知ることが大切となる。そこで、日本の環境問題の現状から、“水”や“資源”、“食”を中心に解説を行い、その後、20世紀後半からの環境問題の推移について概説する。 日本人の悪癖とも言える“悪いことは忘れる”特性の前に、悲惨な被害を引き起こした公害事件の教訓の、その多くが忘れ去られている。本講義を通じて、代表的な公害事件から得られた教訓を再認識し、3・11後の我が国を襲うであろう化学物質による被害への対処を考える一助としたい。 <大地>近年、地球規模での環境問題が深刻化している。本講義では、様々な地球環境問題のうち、特に地球表面の約70%を占める海洋について焦点を当て、地球環境と海洋生態系に関する問題について、最新のトピックスを紹介する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
<渡邊> 1. 地球環境と生態系にかかわる問題を理解する。		1. 3・11後の環境生態学 2011年に起きた福島第一原発の事故による放射性物質の汚染の推移から、現在に進行している環境問題、とくに化学物質と人間の付き合い方についての問題提起を行う。 2. 現在の地球環境 今、人類が直面している地球レベルでの環境問題を「人口」「食糧」「水資源」「エネルギー」そして「化学物質」の各面から概要を把握する。 3. 環境問題総論 環境問題を、その性質の違いから大きく二つのグループに分け、それぞれに関して歴史的背景も含め解説を行う。具体的には公害事件に近い「地域の環境問題」、もうひとつは人類が解決に取り組んでいる「地球環境問題」であり、両者の成立や問題点などを提示したい。 4. 公害事件 過去に我が国で起きた公害事件を、その代表的なものを選び背景、推移、問題点の3点に焦点を当て解説する。そ				講義	15h

<p><大地></p> <p>1. 地球環境と海洋生態系に関する問題について理解する。</p>	<p>の上で、現在、われわれが直面している環境問題にどのように「教訓を生かす」べきか、考えるヒントとする。公害事件として、明治期に起きた四大煙害・鉱毒事件の中で唯一風化を免れた公害の原点「足尾銅山」のケース、戦後の四大公害病の一つ「イタイイタイ病」、さらに我が国で4番目に認定されながら、ほぼ忘れ去られた「土呂久」のケースや、東京で発生した「六価クロム汚染」などを取り上げたい。</p> <p>5. これからの環境問題</p> <p>最後に、現在、環境科学の分野で懸念されている「これからの」環境問題に関して、最新の知見をもとに紹介する。</p> <p>1. 地球 地球環境システムについて、概要を説明する。</p> <p>2. 海洋 海洋について、物理、化学、生物および地学的観点から多角的に説明する。</p> <p>3. 海洋汚染 海洋汚染の概要を説明するとともに、世界各地で報告されている様々な海洋汚染問題について、具体例を紹介する。</p> <p>4. 地球環境の保全 地球環境保全について、海洋と森林の繋がりに焦点を当て、講義を行う。</p>	<p>講義</p> <p>15h</p>														
<p><input type="checkbox"/>成績評価の方法</p> <p>評価は課題に沿ったレポート提出を持って行う</p>	<p><input type="checkbox"/>使用テキスト</p> <p><渡邊></p> <p>『いのちと重金属』渡邊泉 筑摩書房（ちくまプリマー新書）</p>															
<p>出席状況</p>																
<p>試験等</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="261 1742 601 1792">レポート</td> <td data-bbox="601 1742 679 1792">○</td> <td data-bbox="679 1742 1402 1792"><大地></td> </tr> <tr> <td data-bbox="261 1792 601 1841">随時試験</td> <td data-bbox="601 1792 679 1841"></td> <td data-bbox="679 1792 1402 1841">授業の中で紹介する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="261 1841 601 1890">試験</td> <td data-bbox="601 1841 679 1890"></td> <td data-bbox="679 1841 1402 1890"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="261 1890 601 1939">平常の授業状況（授業態度）</td> <td data-bbox="601 1890 679 1939"></td> <td data-bbox="679 1890 1402 1939"><input type="checkbox"/>参考図書・資料・参考ホームページ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="261 1939 601 2040">その他</td> <td data-bbox="601 1939 679 2040"></td> <td data-bbox="679 1939 1402 2040"></td> </tr> </table>	レポート	○	<大地>	随時試験		授業の中で紹介する。	試験			平常の授業状況（授業態度）		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ	その他		
レポート	○	<大地>														
随時試験		授業の中で紹介する。														
試験																
平常の授業状況（授業態度）		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ														
その他																

科目名	保健体育			担当教員	稲井勇仁		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	実技・講義
実務経験教員		実務経験内容					
『健康について学習する場』としての意義を強調したい。心身の健康を維持してくれる運動・スポーツを実施しその効果を実感するだけでなく、運動・スポーツとそれに関連する健康について幅広く学習する機会として保健体育は重要であると考えている。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 心身の健康を維持する。 運動の必要性を実感する。		実技の授業 導入：水分補給について ウォーミングアップについて ストレッチについて 筋力チェックについて ゲーム形式で球技などを行なう。 自体重を用いたトレーニングを行う。				講義	2 h
						実技	24 h
2. 運動と健康について理解する。		運動や健康に関する講義を行なう。 運動や健康の観点から効果的な身体作りを学ぶ。				講義	2 h
						総括	
						試験	1 h
□成績評価の方法			□使用テキスト				
出席状況		○		なし			
試験等	提出物	○		□参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート						
	随時試験						
	試験						
	平常の授業状況（授業態度）	○					
その他（ ）							

科目名	野外活動			担当教員	専任教員		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	実技
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 自然と親しむ野外活動の中で、社会人基礎力となる TPC（考える力、積極性、対話力）を育成する。 特に、集団生活の中で責任感やチームワーク、報告の大切さについて学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 野外活動を介して、TPC へ意識的に取り組むことができる。 2. 集団生活の中で、責任感やチームワークの必要性を実感できる。		<input type="checkbox"/> 内容 野外及び室内での研修に臨む。 【野外研修】 ・野外活動（オリエンテーリング）を介して、考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力について確認し合う。 【室内研修】 ・集団生活のルールを確認し、グループ行動が円滑に取れるよう考え、実践する。 ・研修を通して自己の成長と課題を省察し、文章化する。				実技	15h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法 <input type="checkbox"/> 使用テキスト							
出席状況		○		なし			
試験等	提出物						
	レポート	○					
	随時試験						
	試験			<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html			
	平常の授業状況（授業態度）	○					
その他（ ）							

科目名	教育学			担当教員	菊地愛美		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 「教育学」の授業は、教育学の基礎的な知識を修得すること、学び方を体得することを目的とする。 前半では、「教育」という行為について、医療や看護の世界と深く関わる領域に焦点を当て、教育の役割と課題について検討する。 後半では、関心のあるテーマについて個人またはグループでプレゼンテーションを行う。 講義だけでなく、ディスカッションや課題研究を行うので、積極的な姿勢が求められる。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 教育学の基礎的な知識を習得する。		1. 人間の発達と教育 2. 子どもの生活と教育の変化 3. 子どもにとっての家庭 4. 教師に求められる力量 5. 発達障害と治療的教育 6. 生と死の教育 7. 学校とは何か 8. ジェンダーとセクシュアリティ 9. プレゼンテーション (順不同)				講義	28 h
		総括					
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『教育学』医学書院			
試験等	提出物			<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ プリント			
	レポート						
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況 (授業態度)	○					
その他 (プレゼンテーション)	○						

科目名	英語			担当教員	松村純		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学その他の教育機関で、30年以上にわたり英語教育に従事してきた経験をもとに、看護師として役に立つ英語の教授を行う。				
□授業の目的							
1年次では英語の基礎を徹底して復習し、2年次での看護英語の習得に備えることを目的とする。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 中学3年間で学ぶ基礎英語を理解し、運用できるようにすることを目標とする。		医療現場で実際に英語を使えるようになるために必要な知識は、中学英語の中に全て盛り込まれている。授業では中学英語を徹底して復習し2年生の看護英語習得に備える。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をカバーする授業を行う。				講義	29h
						試験	1h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況				配布プリント			
試験等	提出物	○		□参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート	○					
	随時試験	○					
	試験	○		配布プリント			
	平常の授業状況(授業態度)	○					
その他()							

科目名	家族社会学			担当教員	室田洋子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学の学生相談室カウンセラー30年、心理臨床相談で家族相談30年余り相談員として勤めた。その経験をもとに講義を行う。				
<p>□授業の目的</p> <p>人間はひとりで生活しているのではなく、多くは家族が存在し、家族の一員として生活している。看護の対象者には家族の理解と支援は重要である。また、看護は家族もケアの対象となり、個人と地域社会を繋ぐ働きもする。そこで、家族をシステムとしてとらえ、家族の形態、家族の機能と役割などを理解し、我が国の家族の状況や問題についても理解する。</p>							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
<p>1. 家族の形態、機能と役割について理解する。</p> <p>2. 我が国の家族の状況や問題について理解する。</p>		1 家族社会学の視点 家族の基本的概念と定義				講義	2 h
		2. 家族機能の変遷 gemainshaft と gesellschaft					2 h
		3. 家族システム論					2 h
		生物体システムの7つのレベル(miller)					
		4. 全体としての家族 (family as a whol) の理解				2 h	
		5. 母子相互作用 子どもによって親は育てられる				2 h	
		6. 家族の危機と Homeostasis				2 h	
		家族の構造と世代間の境界					
		7. 家族ダイナミックスの発達の变化 (反抗期現象の意味 Kroh)				2 h	
		8. 家族内の地位と役割 母親コンセプションズ				2 h	
		9. 親子・夫婦・家族・パートナーと家族関係 (Moreno の関係論)				2 h	
		10. 家族の発達課題と発達の危機 (Erikson のアイデンティティ論)				2 h	
		11. 家族内コミュニケーション				2 h	
		間主観性 Nonverbal Communication					
		12. 若い家族の発達課題と乳児期の発達課題				2 h	
愛着形成と愛着障害							
13. 母(父)性の形成と失敗 虐待の土壌				2 h			
躰ける Autonomy-Shame							
14. ライフサイクルと家族 家族と医療				2 h			
15. 総括と評価試験				2 h			

<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		<input type="checkbox"/> 使用テキスト
出席状況		『図解・心理学』室田洋子他 学術図書出版
試験等	提出物	
	レポート	
	随時試験	
	試験	<input checked="" type="radio"/>
	平常の授業状況（授業態度）	
	その他（ ）	
		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ プリント

科目名	解剖生理学 I (概論)			担当教員	神山暢夫		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学医学部、看護学部において授業のみならず、少人数教育のチューターを務めた経験をもとに、学生自らが学習の方法を身につけられるように指導してゆきます。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 ～解剖生理学について～ 解剖学と生理学は医学の中で最も基礎となる学問で、これを自転車に例えるなら、解剖学を前の車輪とすれば、生理学は後の車輪である。即ち、両輪が一体となって働かねばヒトの生命は保てない。前者は人間の体の構造や形態を学ぶのに対して、後者は機能や働きを学ぶ。この進んだ現代においても未だ解明されていない点は多々あれど、人間の体の精密さに諸君は感嘆の声を上げることであろう。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 人体を構成する細胞・組織・器官・系について理解する。 2. 医学用語を正確に理解する。		1	イントロ	人体の構造と機能・授業の概要	講義	14h	
		2		ヒトの体			
		3		細胞の中と外			
		4		体内の水・生理食塩水			
		5	皮膚	皮膚の構造と機能		1h	
		6	骨	骨学の概要			
		7	全身の骨マクロ				
		8	総括とテスト (I)				
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』			
試験等	提出物			坂井建雄他 医学書院			
	レポート						
	随時試験						
	試験			○ <input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況 (授業態度)						
その他 ()							

科目名	解剖生理学Ⅱ（生命維持機能1）			担当教員	神山暢夫		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学医学部、看護学部において授業のみならず、少人数教育のチューターを務めた経験をもとに、学生自らが学習の方法を身につけられるように指導してゆきます。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人体で営まれている生命現象は、生命を維持するはたらき（植物機能）と生命を活用するはたらき（動物機能）に大別される。植物機能は、人体と細胞の生命を維持する基盤となるものである。 ここでは、生命を維持する植物機能のうち「血液の循環とその調節」「腎機能」について学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 生命を維持する植物機能について理解する。		1	血液	テストの見直し 血液の組成		講義	28h
		2		血液の働き			
		3		免疫、血液凝固			
		4	循環	循環の概要			
		5		心臓の構造			
		6		心臓の収縮（1）			
		7		心臓の収縮（2）			
		8		心電図			
		9	腎	動脈と静脈			
		10		血液循環の動態 いろいろな血管			
		11		腎機能の概要			
		12		ネフロンの構造			
		13		尿の生成			
		14		腎機能の調節			
		15		総括とテスト（Ⅱ）			
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法 <input type="checkbox"/> 使用テキスト				『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』 坂井建雄他 医学書院			
出席状況							
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	解剖生理学Ⅲ（生命維持機能2）			担当教員	神山暢夫			
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義	
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学医学部、看護学部において授業のみならず、少人数教育のチューターを務めた経験をもとに、学生自らが学習の方法を身につけられるように指導してゆきます。					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人体で営まれている生命現象は、生命を維持するはたらき（植物機能）と生命を活用するはたらき（動物機能）に大別される。植物機能は、人体と細胞の生命を維持する基盤となるものである。 ここでは、生命を維持する植物機能のうち「呼吸と血液のはたらき」「栄養の消化と吸収」について学ぶ。								
到達目標		内 容					授業形態と時間	
1. 生命を維持する植物機能について理解する。		1	呼吸	テスト見直し 呼吸の概要 1		講義	28 h	
		2		呼吸の概要 2				
		3		肺の構造				
		4		換気とは				
		5		ガス交換				
		6		肺機能とその検査				
		7		体液のホメオスタシス 1				
		8	体液のホメオスタシス 2					
		9	消化	消化器系の概要				
		10		栄養と消化、吸収				
		11		消化器系の構造				
		12		上部消化管				
		13		下部消化管				
		14		腹部実質臓器				
		15		総括とテスト（Ⅲ）				
							2 h	
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト				
出席状況				『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』				
試験等	提出物			坂井建雄他 医学書院				
	レポート							
	随時試験							
	試験			○ <input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）							
その他（ ）								

科目名	解剖生理学Ⅳ（生命を活用する機能）			担当教員	神山暢夫		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学医学部、看護学部において授業のみならず、少人数教育のチューターを務めた経験をもとに、学生自らが学習の方法を身につけられるように指導してゆきます。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 生命を活用する動物機能は、情報を受容し、処理し、出力する、すなわち人体の活動を統合するはたらきである。ここでは、「情報の受容と処理」について学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 人体の活動を統合する働きについて理解する。		1	神経系	テストの見直し 神経系の概要	講義	28 h	
		2		膜電位の発生			
		3		活動電位の発生と伝導			
		4		シナプス			
		5		筋の構造と収縮			
		6		筋収縮のコントロール、マクロ筋			
		7		中枢神経系の解剖			
		8		脊髄と末梢神経			
		9		反射の解剖と機能			
		10		感覚器の概要、聴覚と平衡覚			
		11		視覚			
		12	自律神経系	自律神経系の概要			
		13		自律神経系の解剖			
		14		自律神経系の支配の原則と例外			
		15		総括とテスト（Ⅳ）	2 h		
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』			
試験等	提出物			坂井建雄他 医学書院			
	レポート						
	随時試験						
	試験			○ <input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況（授業態度）						
	その他（ ）						

科目名	解剖生理学V (体の保護と種の保存機能)			担当教員	神山暢夫		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学医学部、看護学部において授業のみならず、少人数教育のチューターを務めた経験をもとに、学生自らが学習の方法を身につけられるように指導してゆきます。				
□授業の目的 ヒトという種を保存するはたらきについて、生命の誕生、成長と老化という経過を通じて学習する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 種の保存・成長と老化の過程を理解する。		1	生殖	テストの見直し	生殖の意義と概要 男性生殖器 女性生殖器 内分泌系の概要、ホルモンの分類 内分泌各論1 内分泌各論2 総括とテスト	講義	14h
		2					
		3					
		4	内分泌				
		5					
		6					
		7					
							1h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況			『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』 坂井建雄他 医学書院				
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験		○ □参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況 (授業態度)						
その他 ()							

科目名	生化学			担当教員	富原壮真・田中彬寛			
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義	
実務経験教員		実務経験内容						
<input type="checkbox"/> 授業の目的 ヒトのからだで起こる生理現象は、分子レベルでの反応を基本としている。投薬などにより働きかける対象の多くもそれらである。からだの仕組みに関して、医療現場で生きる知識を得るには、器官・組織レベルに加え、分子レベルの視点が欠かせない。本授業は、分子レベルでからだの仕組みを理解することと、将来看護師としてより適切な看護・治療ができる思考力や応用力を獲得することを目的としている。								
到達目標		内 容				授業形態と時間		
1. 生化学の知識がどのように現場で生きるか説明できる		I 生化学の基礎 1. 化学の基礎 ：“元素”“化学反応”？基本知識を覚えよう 2. 細胞の構造と機能 ：細胞小器官とは？その機能は？ II 生体を構成する物質 1. 糖質 ：体内の“糖”とは何？ 2. 脂質 ：脂質は“体脂肪”だけじゃない。多様な構造と機能 3. タンパク質 ：運動も代謝も免疫も…タンパク質が支える 4. 核酸 ：DNA の材料、遺伝を基盤となる性質を知る 5. 水と無機質 ：なぜ水は必要か。その役割を理解する 6. ホルモン ：からだは常にホルモンにより調節されている III 生体内の物質代謝 1. 酵素とビタミン・補酵素 ：“酵素”“ビタミン”は何をする？ 2. 糖質代謝 ：“糖”はどうやって“エネルギー”になるのだろう 3. 脂質代謝 ：“脂肪の分解”とは正確にはどういうこと？ 4. タンパク質代謝 ：“アミノ酸”への分解を知る 5. 核酸代謝・ポリフィリン代謝 ：核酸は痛風に関与する！ IV 遺伝情報とその発見 1. 遺伝情報 ：親からの“遺伝”…DNA から理解する 2. 遺伝病 ：どんな病気がどうやって遺伝？ 総括				講義	29 h	
2. 生体を構成する物質について説明できる						試験		1 h
3. 生体内の代謝やその働きについて説明できる								
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法 <input type="checkbox"/> 使用テキスト				『はじめの一步の生化学・分子生物学』 第3版 前野正夫他著 羊土社				
出席状況		○						
試験等	提出物	○						
	レポート							
	随時試験	○						
	試験	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ 「コア講義 生化学」田村隆明 裳華房				
	平常の授業状況（授業態度）	○		「新しい高校生物の教科書」梶内新、左巻健男 講談社				
その他（ ）								

科目名	栄養学			担当教員	武田朝子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	管理栄養士				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 健康にとっての栄養の意義と栄養系の生体内における消化・吸収について理解する。 また、食事療法の基礎を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 栄養の意義と消化・吸収について理解する。		1. 人間栄養学と看護				講義	14 h
		2. 健康づくりと食品・食事・食生活					
2. 食事療法の基礎を理解する。		3. エネルギー代謝				講義	14 h
		4. 栄養素の種類とはらたき 炭水化物、脂質、タンパク質 ビタミン、ミネラル、水					
		5. 栄養素の消化・吸収と体内代謝				試験	1 h
		6. 栄養状態の評価・判定と栄養ケアマネジメント					
		7. ライフステージと栄養				試験	1 h
		8. 臨床栄養 …… 病院食 疾患別食事療法の実際 手術と食事 妊娠と食事 在宅療法者の食事療法 栄養補給法					
		総括					1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学』					
試験等	提出物	小野章史他 医学書院					
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	病理学			担当教員	町並陸生		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	病理学臨床医				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝の病理学的変化の基礎を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 疾病の成り立ちと回復過程について理解する。		1. 序論 2. 発生の異常、奇形 3. 代謝障害、変性 4. 循環障害 5. 炎症（免疫も含む） 6. 新生物（腫瘍） 7. 各臓器に特徴的な病変 8. 病理部見学（病理学的検査法）				講義	14h
						講義	14h
2. 病理学的変化の基礎を理解する。		総括					1h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『入門病理学 病気の形態となりたち』町並陸生 丸善出版			
試験等	提出物				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ		
	レポート						
	随時試験						
	試験		○				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	疾病と治療（循環・呼吸・血液）		担当教員	杉村洋一・大嶋ナガミ・浅妻直樹				
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義	
実務経験教員	◎	実務経験内容	循環器内科・呼吸器内科・血液内科 臨床医					
<p>□授業の目的</p> <p>人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するために解剖生理学を基礎とした上で病態生理学を臨床で活用可能なものとして学ぶ。病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。ここでは、疾病による機能の変化により生じてくる代表的な症状について、メカニズムを学び、主な疾患、検査、治療について理解を深め、看護に結び付けられる基礎知識とする。</p> <p>循環器・呼吸器系の障害では、人間の生命維持に必要な酸素や栄養の供給、内部環境維持に影響を与え、血液・造血系の障害では、生体防御機能の著しい障害が起き、生命維持を困難にすることを理解する。</p>								
到達目標	内 容					授業形態と時間		
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。	<p><循環器></p> <p>1. 体循環と心不全</p> <p>2. 虚血性心疾患と心臓カテーテル治療</p> <p>3. 代表的な心疾患</p> <p>4. 心電図</p> <p>5. 不整脈</p>					講義	10h	
	2. 主な疾患の検査治療について理解する。	<p><呼吸器></p> <p>1. 代表的な自覚症状と他覚症状</p> <p>喀痰、血痰・咯血、咳（喀痰）、胸痛、呼吸困難、チアノーゼ、喘鳴、呼吸の異常、意識障害</p> <p>2. 主な検査</p> <p>血液検査、喀痰検査、画像診断、内視鏡検査、生検、呼機能検査、血液ガス分析（データの読み方、酸塩基平衡）</p> <p>3. 主な治療</p> <p>吸入、酸素療法（人工呼吸器含む）、胸腔ドレナージ</p> <p>4. 主な疾患と治療</p> <p>肺炎、インフルエンザ、結核、気管支喘息、COPD・間質性肺炎、肺癌</p>					講義	10h
		<p><血液系></p> <p>1. 血液の成分と機能、造血のしくみ</p> <p>2. 主な症状と病態生理</p> <p>・赤血球の異常（貧血） ・白血球の異常（白血球減少症）</p> <p>・血液凝固と異常（出血傾向、DIC）</p> <p>3. 主な検査と治療</p> <p>・骨髄穿刺 ・化学療法と副作用 ・輸血</p>					講義	8h

		4. 主な疾患 ・白血病 ・悪性リンパ腫 総括		1 h
			試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト		
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器』 上塚芳郎他 医学書院		
試験等	提出物	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器』 浅野浩一郎他 医学書院		
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器』 飯野京子他 医学書院		
	随時試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ	
	試験			
	平常の授業状況（授業態度）			
その他（ ）				

科目名	微生物学			担当教員	林谷秀樹・堀坂知子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	林谷：大学において、35年間細菌性病原体に関する教育・研究に従事。実例を活用した講義を行う。堀坂：研究員として三菱化学(株)総合研究所微生物室に13年間、NPOカビ相談センターに6年間勤務した。実例を多く取り入れた講義を行う。				
□授業の目的 微生物の生態・種類と特徴、人体に及ぼす影響と対応について理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 微生物の種類と特徴について理解する。		1) 微生物とは				講義	6 h
		2) 微生物学の歴史					
2. 人体に及ぼす影響と対応について理解する。		3) 微生物学の基礎 … 細菌の性質 真菌の性質 原虫の性質 ウイルスの性質				講義	22 h
		4) 感染とその防御 … 感染と感染症 自然免疫、獲得免疫 感染源・感染経路からみた感染症 滅菌と消毒 感染症の予防、診断、治療 感染症の現状と対策					
		5) 病原細菌と細菌感染症					1 h
		6) 病原真菌とその感染症					
		7) 病原原虫とその感染症					
		8) 主なウイルスとウイルス感染症					
		総括					
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進			
試験等	提出物				[4] 微生物学』南嶋洋一他 医学書院		
	レポート		○				
	随時試験						
	試験		○		□参考図書・資料・参考ホームページ		
	平常の授業状況(授業態度)						
	その他()						

科目名	医療概論			担当教員	林松彦・太田克也		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 チーム医療の一員である看護師は、看護の基礎となる真の医学のすがたとあるべき医療のすがたを正しく理解する必要がある。 ここでは、医学の概念と健康・病気・医学の体系について学習する。また、医学の進歩と生命の意義や医療のあり方について学ぶ							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 医学の変遷と発達について理解する。	1. 医学をどのようにとらえるか 2. 医学の発達のすがた — 医学史 3. 健康・病気・医学の体系 4. 医療の実践 5. 健康格差と社会的要因 6. 我が国の社会保障制度 7. グローバル化と医療					講義	14h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				健康支援と社会保障制度 医療学総論			
試験等	提出物		メヂカルフレンド社				
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	生活科学			担当教員	横尾優美		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人間の生活にとって不可欠な衣食住の様々な事柄について科学的視点からとらえ、現代社会における生活者として身近な衣食住の問題を考える。また、看護の立場に立ったとき実践に役立つ知識を修得することを目的とする。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 衣食住を科学的視点からとらえ実践的知識と結びつけて考える。	I. 住宅の役割と現代の住環境 1. 生活空間の構成 2. 住宅の安全 II. 食生活の現状と健康問題 1. 家族形態と食生活 2. 食品の安全 III. 被服の役割と機能 1. 被服の管理 2. 様々な機能を持つ被服					講義	14h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況			○				
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験		○				
	平常の授業状況（授業態度）		○				
その他（ ）							
				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ 資料配付			

科目名	看護学概論			担当教員	前田律子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師、助産師として総合病院に10年間勤務。その後、看護教育学を専攻し看護の本質を学び直す。その経験をもとに講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 看護学概論では、初めて看護を学ぶ学習者が看護全般の基本となる概念を理解し、看護の本質を学ぶことにより各領域の看護学への学習意欲を高めることをねらいとする。本校での看護実践の基礎となる看護理論や専門職としての看護倫理についても理解し、社会や医療における看護の位置づけと役割について学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 看護の歴史、理念、本質について理解する		1. 看護の歴史 2. 看護の定義 3. 変化している看護 4. 看護の対象 5. 人々の生活と健康				講義	6 h
2. 看護師に求められる基本的能力と責任について理解する		1. 現代社会と倫理 2. 看護実践と倫理 3. 看護と法				講義 演習 講義	4 h 2 h 2 h
3. 看護理論について理解し、看護を理論として捉える力を養う		1. 理論とは何か 2. 理論の種類 3. 看護実践と理論				講義	8 h
4. 保健医療福祉における看護の役割を理解する		1. 保健・医療・福祉の理念と看護 2. 他職種との連携・協働 3. 看護サービス提供の場				講義	2 h
5. 専門職の定義や基準を理解する		1. 専門職とは 2. 専門職としての看護 3. 看護の業務と義務 総括				講義	2 h
							1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論』			
試験等	提出物		茂野香おる他 医学書院				
	レポート		○				
	随時試験						
	試験		○ <input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
	その他（グループワーク参加状況）		○				

科目名	基本技術			担当教員	岡野全子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	12年間、外科、内科病棟で勤務。術後の回復支援や複合内科での身体面の観察、精神面の支援など看護活動を行った。その経験をもとに看護にとって必要な原則、技術を講義、校内実習する。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 基本看護技術は、看護実践における看護技術の意義や概要を学ぶとともに、看護実践の基本となる技術について学習する。 基本技術の項目として、「観察」「報告・記録」の原則と方法、バイタルサイン測定の方法、看護場面における対象の安全・安楽を守る技術についての知識と技術を学ぶ。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 看護技術を学習する意義と学習方法を理解する。		1. 看護技術の捉え方 2. 看護技術の特徴と看護実践 3. 看護技術とコミュニケーション			講義	6 h	
2. 対象の安全安楽を守る意義と基本的な方法を理解する。		1. 安全・安楽の意義 2. スタンダードプリコーション 3. 臨床における事故防止			講義 校内実習 ・手洗い	4 h 2 h	
3. 対象の健康状態を把握するために必要な方法を理解する。		1. 観察の意義 2. 観察の内容と方法 3. 報告と記録			講義 演習	2 h 2 h	
4. 基礎的な身体観察のための技術を習得する。		1. バイタルサイン測定の意義 2. 呼吸と測定方法 3. 体温と測定方法 4. 脈拍と測定方法 5. 血圧と測定方法			講義 校内実習 ・呼吸測定 ・体温測定 ・脈拍測定 ・血圧測定	8 h 4 h	
		総括				1 h	
					試験	1 h	
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』			
試験等	提出物		○	有田清子他 医学書院			
	レポート			『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ』			
	随時試験			有田清子他 医学書院			
	試験		○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況（授業態度）						

科目名	面接とフィジカルアセスメント			担当教員	岡本隆行・吉津みさき		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師の臨床経験、大学の同科目担当経験等をふまえて授業を展開する。臨床医による演習も交え、実践に役立つ側面も重視する。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 看護師が対象者に関する情報を意図的に収集し、正確に査定するのは、看護の質や方向性を決定する重要なポイントである。そのために看護師は対象者とのコミュニケーション技術を修得する必要がある。また、対象者の身体的状況について判断できる系統的なフィジカルアセスメントの方法を修得する必要がある。 当科目では、看護面接とフィジカルアセスメントの基本的な知識・技術について学ぶことを目的とする。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解する。		1. フィジカルアセスメントとは 2. 身体診察の意義 3. 身体診察の技術				講義	2 h
2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。		1. 対人関係プロセスとしてのコミュニケーション 2. 看護場面におけるコミュニケーションスキル				講義	2 h
3. 看護場面における基礎的な面接技術を習得する。		1. 患者とのコミュニケーション 信頼関係を築く、話を聴く、質問する 2. 臨地実習における事例 看護援助としてのコミュニケーション				講義	2 h
4. 基本的なフィジカルイグザミネーションを実施でき、正常な身体状況を理解する。		1. フィジカルアセスメントの実際 1) 実施に必要な基本的知識 2) 実施上のポイント ・外皮・頭頸部・胸部 ・腹部・筋骨格神経系 3) 身体計測 2. 看護に生かすフィジカルアセスメント 総括				演習	2 h
						講義	10 h
						演習	10 h
							1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『はじめてのフィジカルアセスメント』			
試験等	提出物	○	横山美樹 メディカルフレンド社				
	レポート	○	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』				
	随時試験	○	有田清子他 医学書院				
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況 (授業態度)						
	その他 ()						

科目名	生活を整える技術Ⅰ（環境・清潔・衣）		担当教員	浅川真里			
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師として内科病棟で勤務。臨床経験をもとに、看護技術に必要な知識・技術が修得できるよう講義と実習を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 健康的な日常生活は持続されるべきだが、疾病や機能低下が生じると制限されるようになる。 看護の対象を生活者として捉え、日常生活行動を制限された人に援助するためには、生活を支える援助技術の基本について理解し技術を習得する必要がある。ここでは、対象の安全で安楽な「環境」を整え、人間にとっての「清潔」の意義を理解し、清潔を整えるための基本的な技術を習得する。							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 健康生活と環境の関連を理解する。	1. 環境とは 2. 環境と健康の関係 3. 環境調整における看護師の役割			講義	2 h		
2. 安全で快適な病床環境を整える技術を習得する。	1. 病床環境を整える技術 ①ベッド作成 ②就床患者のシーツ交換			講義	2 h		
				演習	6 h		
				クロスド・ベッド作成	(4 h)		
				シーツ交換 (就床患者)	(2 h)		
3. 健康生活と清潔の関連が理解でき、基本的な技術を習得する。	1. 清潔の意義 2. 皮膚の構造、生理機能 3. 清潔の援助が必要な対象 4. 清潔援助時の安全・安楽の原則 5. 清潔の援助方法 ①口腔の清潔 ②全身の清潔 ③頭の清潔 6. 衣生活の意義 7. 寝衣交換の目的と方法			講義	6 h		
				演習	8 h		
				全身清拭	(4 h)		
				足浴	(2 h)		
				洗髪	(2 h)		
	総括			講義	2 h		
				演習	2 h		
				寝衣交換	1 h		
				試験	1 h		
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況			『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ』				
試験等	提出物	○	有田清子他 医学書院				
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	生活を整える技術Ⅱ (運動・休息・食・排泄)			担当教員	渡邊明子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	総合病院にて外科、内科看護師として勤務。人間にとっての「食」「排泄」の意義を理解し、整えていくための基本的な生活援助技術が身に着けるように講義を行う。				
<p>□授業の目的</p> <p>健康的な日常生活は持続されるべきだが、疾病や機能低下が生じると制限されるようになる。看護の対象を生活者として捉え、日常生活行動を制限された人に援助するためには、生活を支える援助技術の基本について理解し技術を修得する必要がある。</p> <p>ここでは、人間にとっての「運動・休息」「食」「排泄」の意義を理解し、運動・休息・食・排泄を整えるための基本的な生活援助技術を修得する。</p>							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 健康生活と運動・休息の関連の理解と基本的な技術を修得する。	1. 活動と休息の意義			講義	4 h		
	2. 健康生活と運動			校内実習	4 h		
	3. 運動の援助が必要な対象				講義	2 h	
	4. 体位を保つ、安楽な体位			講義		2 h	
	5. 運動の援助方法				講義	2 h	
	(1) 体位変換の目的と方法			演習		2 h	
	(2) 移動のための援助(車椅子・ストレッチャー)				就床患者の食事介助	2 h	
	6. 睡眠の生理			講義		2 h	
	7. 休息の援助が必要な対象				講義	2 h	
	8. 睡眠を促すための援助			講義		2 h	
2. 健康生活と食の関連の理解と安全で安楽な援助技術を修得する。	1. 食の意義				講義	6 h	
	2. 食の基礎知識			演習	2 h		
	3. 食の援助				就床患者の食事介助	2 h	
	(1) 食行動の分析とアセスメント			演習		2 h	
	(2) 食事介助の原則と方法				便器介助	2 h	
	1. 排便、排尿のメカニズム			講義		8 h	
3. 健康生活と排泄の関連の理解と基本的な技術を修得する	2. 排泄援助における看護の役割				演習	2 h	
	3. 排泄援助の原則と方法			便器介助		2 h	
	(1) 床上排泄の援助方法				陰部洗浄	2 h	
	4. 排泄機能障害時の援助方法			試験		1 h	
	総括				試験	1 h	
				試験		1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ』	
試験等	提出物	○	有田清子他 医学書院
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	看護過程展開の技術			担当教員	渡邊明子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	総合病院にて外科、内科看護師として勤務。看護師展開の技術の基本を学習し、看護実践に適用できる能力を養うため講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 看護過程は、看護師があらゆる看護現象を対象として看護を提供する際に用いる科学的思考過程である。この思考過程により看護師はケアの受け手のニーズおよび問題を的確に把握し、看護計画を立て、効果的かつ効果的に看護を提供し評価することができる。 ここでは看護過程展開の技術の基本を学習し、看護実践に適用できる能力を養う。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 看護過程の概要を理解できる		1. 看護過程とは 2. 看護過程の各要素 3. 看護過程の思考プロセス				講義	4 h
2. 看護過程の基礎となる思考過程を理解できる		1. アセスメント 1) 情報収集の方法 2) 情報の種類 2. 全体の統合 3. 問題点・ニーズの明確化 1) 問題点の明確化、表現法 2) 問題点・ニーズの優先順位の基準 3) 問題点の種類 4) ニーズの表現法（強みの表現含む） 4. 計画立案（目標の設定） 5. 実施（実行・報告） 6. 評価 1) リフレクションを用いた看護実践の振り返り				講義	10 h
3. 臨床実習における看護過程の活用が理解できる		1. 事例展開（実習受け持ちケース活用）				演習	6 h
		総括					1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』 医学書院			
試験等	提出物	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	臨床看護総論			担当教員	佐々木元子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	総合病院で看護師として、産婦人科・小児科・手術室勤務。健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護の基本を理解する。健康障害の状況に応じた、主要な治療法や看護の基本について講義する。				
□授業の目的							
健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護の基本を理解する。							
健康障害をとらえる看護の視点として、健康水準、機能障害を理解し、その健康障害の状態に応じた主要な治療法、主症状や看護の基本を学習する。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 健康水準とそれに応じた看護の基本を理解する	1. 健康水準の区分と定義					講義	2 h
	2. 健康水準別対象の理解と看護の基本					演習 救急救命講習	4 h
	(1) (急性期)						
	①対象の特徴 (生活への影響を含む)						
	②治療の特徴					講義	4 h
	・安静療法 ・救急法 (1次)						
	③看護の基本					講義	4 h
	(2) (慢性期)						
	①対象の特徴 (生活への影響を含む)					講義	4 h
	②治療の特徴						
	・食事療法					講義	4 h
	③看護の基本						
	(3) (回復期)					講義	4 h
	①対象の特徴 (生活への影響を含む)						
	②治療の特徴					講義	4 h
	・リハビリテーション						
	③看護の基本					講義	4 h
	(4) (終末期)						
	①対象の特徴 (生活への影響を含む)					講義	8 h
	②治療の特徴						
	・疼痛コントロール					講義	1 h
	③看護の基本						
2. 機能障害から起こる主要な症状とそれに応じた看護の基本を理解する	1. 生命維持機能障害と看護					講義	1 h
	・呼吸困難 ・発熱 ・浮腫						
	2. 栄養代謝機能障害と看護					試験	1 h
	・黄疸						
	総括						

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4]臨床看護総論』	
試験等	提出物		香春知永 医学書院
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	成人看護学概論			担当教員	山田雅子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師として臨床で10年間勤務。臨床での実務経験に公衆衛生的な視点を加え、成人看護に有用な理論と予防的・教育的看護の講義を行う。				
<p>□授業の目的</p> <p>成人期は幅広く、社会の中でも重要な役割を担っている人々である。成人期にある人の特徴から健康問題を捉え、その原因を生活の視点から捉える。</p> <p>また、成人の健康課題のとらえ方、成人看護に有用な理論について学ぶ。</p> <p>後半では、わが国の成人の保健問題の動向と保健対策を学ぶ。</p>							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 成人看護学の概念を理解する。		1. 成人看護学の概念 1) 成人看護の目的 2) 成人看護の対象 3) 成人看護の方法				講義	2 h
2. 成人各期の発達段階を理解する。		2. 成人各期の特性 1) 成人期の発達段階と特徴 2) 成人のヘルスプロモーション 3) 成人各期の健康障害の特徴				講義 演習	4 h 6 h
3. 成人の健康課題と特徴について理解する。		3. 成人の健康課題と特徴 1) 健康危機状況にある成人 2) 侵襲的治療を受ける成人 3) セルフマネジメントを必要とする成人 4) セルフケア再構築に向けての成人 5) 緩和ケアを必要とする成人				講義	6 h
4. 成人期の看護に有用な理論について理解する。		4. 成人看護に使用される主要な理論 1) ストレス理論 2) セルフケア理論				講義	4 h
5. 医療・福祉施策の現状と課題について理解する。		5. 保健医療福祉における動向と課題				講義 演習	2 h 4 h
		総括					1 h
						試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『成人看護学概論』 大西和子他 ノーヴェルヒロカワ	
試験等	提出物	○	『国民衛生の動向』 厚生労働統計協会
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（グループワーク参加状況）		

科目名	老年看護学概論			担当教員	岡本隆行		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師の臨床経験、研究経験、市民後見人の活動経験等に基づき、高齢者の特徴や高齢者を取巻く社会環境等について概説する。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 高齢化の進んだ我が国では、看護対象の多くを高齢者が占め、看護へのニーズは高い。その半面、学生は自身での老いの経験が乏しく、老年看護を学ぶ難しさがある。当科目では、高齢者の特徴、多様化する社会システム、看護を学び、高齢者への理解を深めることを目的とする。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 老年看護学の主な概念を理解する。		老いるということ 老いを生きるということ				講義	2 h
2. 高齢者を取り巻く社会と主な社会保障を理解する。		超高齢社会と社会保障				講義 演習	4 h
3. 加齢に伴う変化や主な病気を理解する。							
4. 療養生活とヘルスプロモーションを理解する。		老年看護のなりたち 生活機能を整える看護				講義	1 2 h
5. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。							
		療養生活とヘルスプロモーション 高齢者のリスクマネジメント				講義	4 h
		グループワーク 高齢者の理解 総括				演習	7 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』北川公子他 医学書院			
試験等	提出物	○	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会				
	レポート	○					
	随時試験		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	試験	○	『置かれた場所で咲きなさい』 渡辺和子 幻冬舎				
	平常の授業状況（授業態度）		『九十歳。何がめでたい』 佐藤愛子 小学館				
	その他（ ）		『認知症の語り』 www.dipex-j.org/dementia/				

科目名	高齢者の生活と社会			担当教員	音山若穂		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	高齢者のケアに関する実証的な研究実績があり、その経験・実例をもとに講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 本講義では高齢者の生活と社会について、特に心理社会的側面を中心に扱う。 最新の高齢社会白書などをもとに少子高齢社会の傾向や高齢者の生活実態を解説するほか、将来、高齢者のこころの理解の助けになることを目的として、高齢者の家族関係や、地域社会の関係をはじめ、対人関係のダイナミックや対人関係のスキルについての基本的な知識を示す。さらに対話形式の演習を通して、高齢者やその家族についての理解を深めることを目的としている。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 社会の中で高齢者が生きる事を理解する。 2. 高齢者の生活と家族・社会の支援について理解する。		1. 老いを生きる・高齢社会の理解Ⅰ “老いる”ということ・老いを生きるということ(系看第1章) 高齢社会の統計的輪郭(第2章A) 少子高齢化の実態				講義	2h
		2. 高齢社会の理解Ⅱ 団塊の世代の意識				講義	2h
		3. 高齢社会の理解Ⅲ 高齢者世帯と生活、健康状況、就業実態				講義	2h
		4. グループワーク 未来の社会生活を予測してみる				演習	2h
		5. 高齢社会対策Ⅰ エイジレス・ライフ 地域資源と社会参加(第7章A①)				講義	2h
		6. 高齢社会対策Ⅱ 介護家族とその支援(第7章C)				講義	2h
		7. グループワーク 高齢者、地域の絆づくりのための対話				演習	2h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』			
試験等	提出物		北川公子他 医学書院				
	レポート						
	随時試験		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	試験(基本的知識を問う問題10問程度、論述1~2問)		◎	高齢社会白書(高齢社会対策)、子ども・子育て白書(少子化対策)の最新資料参考			
	平常の授業状況(授業態度)		→内閣府ホームページ。概要の一部は授業時に配布する				
その他()		文献は講義中に適宜紹介する。					

科目名	小児看護学概論			担当教員	伊東由美		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学病院の小児病棟において健康障害を持つ子どもの看護に5年間。障害児通園施設・保育園において子どもの健康管理に5年間従事。実例経験をもとに講義を行う。				
□科目のねらい 人間の出発点である小児期にある子どもや子どもを取り巻く社会環境の変化を理解することを目的とする。看護の対象としての小児と小児を取り巻く環境を踏まえ小児看護の理念と目的を学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 小児看護の概念を理解できる		1. 小児看護とは 2. 小児看護の変遷 1) 小児看護の対象と看護の場 2) 小児看護の課題と展望 3) 成育医療の概念 3. 小児看護の倫理 1) 子どもの人権 2) 子どもへのケア				講義	4 h
2. 小児の特徴や成長発達を理解できる		1. 小児の特性 1) 小児期の年齢区分 2) 小児の特徴 3) 小児各期の発達段階 2. 成長発達 1) 成長・発達の原則 2) 成長発達の影響因子 3) 形態的・機能的発達 4) 心理社会的発達 5) 成長発達の評価				講義	8 h
3. 小児を取り巻く環境を理解できる		1. 小児と家族 2. 小児と社会 3. 子どもの虐待				演習	6 h
4. 小児の健康指標と保健対策を理解できる		1. 日本と世界の母子保健動向 2. 小児を保護する法律 3. 予防接種 4. 学校保健				講義	6 h
		総括					1 h
						試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総』 医学書院	
試験等	提出物	○	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
	レポート		
	随時試験		□参考図書・資料・参考ホームページ
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	母性看護学概論			担当教員	前田律子		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師、助産師として総合病院に10年間勤務。その後、母性看護学の臨床実習に従事。実例・経験をもとに講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 現代社会において母子をめぐる生活環境は著しく変化し、母性看護の役割はますます拡大されている。 生涯を通じての性と生殖に関する健康をまもるという観点から母性看護の対象、役割を理解し「命」に対する畏敬の念、慈しむ心を育んでいく。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 母性看護の主な概念について理解する		1. 母性とは、父性とは 2. 愛着行動（アタッチメント）と相互作用 3. セクシュアリティ 4. リプロダクティブヘルス／ライツ				講義	6 h
2. 母性看護における倫理について理解する		1. 母性の権利と擁護 2. 母性看護における生命倫理諸問題				講義	2 h
3. 母性看護の動向と法、施策について理解する		1. 歴史的変遷 2. 近代社会と母性看護 3. 母子保健統計からみた動向 4. 母性を保護する法律 5. 子育て支援 6. 対象を取り巻く環境				講義 講義	2 h 10 h
4. 母性看護の対象を理解する		1. 形態、機能の変化 2. 女性、家族のライフサイクル 3. 母性の発達、成熟、継承				講義	4 h
5. ライフサイクル各期にある人の特徴と看護について理解する		1. 思春期：身体・心理・社会的特徴 健康問題と健康教育 2. 成熟期：女性と結婚、出産、性機能障害の治療と看護 3. 更年期：ホルモンの変化、更年期障害と看護 男性更年期と看護				講義	4 h
		総括					1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		○		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論』			
試験等	提出物			森恵美他 医学書院			
	レポート	○		『国民衛生の動向』厚生労働統計協会			
	随時試験						
	試験	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	精神看護学概論			担当教員	岡野全子・渡辺純一		
単位数	1	時間	30	学年	1	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	岡野：教員経験の中で約20年間精神看護学実習で学生を指導する中で、臨床看護師の精神に障害を持つ人の観察方法や生活の整え方、人と人としてのかわり方、倫理的視点などを学ぶ機会を得てきた。その中で身につけた精神看護学の基本的な考え方を講義する。渡辺：精神科病院において精神看護専門看護師として勤務。その経験を踏まえ、実際の病院臨床の現状や事例を活用した講義を行う。				
□授業の目的							
人間の健康な心の発達とそれに影響を与える要因を理解し、現代社会における精神的健康の保持・増進への援助に必要な知識を学習する。精神とストレス、危機について学習し、健康に及ぼす影響と介入の方法について学習する。精神に健康障害をもつ人がたどってきた歴史を概観し、現代の社会が担う課題に気づき、看護師の役割について理解を深める。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 精神看護学の目的・対象について理解する		1. 精神看護の目的と対象 2. 心の健康とは			講義	8 h	
2. 精神に障害を持つ人の歴史を理解する。支援する仕組みを理解する		1. 精神保健医療福祉の歴史と現在 1) 外国の精神医療と日本の精神医療 2) 精神保健福祉法 3) 障害者総合支援法 4) 心神喪失者医療観察法			講義	4 h	
3. 精神に障害を持つ人への看護と倫理について理解する		1. 精神障害を持つ人への行動制限と隔離の目的と倫理			講義	2 h	
4. 発達課題と精神保健上の問題を理解する		1. 精神の機能と防衛機制 2. ライフサイクルと発達課題 フロイトの発達論、エリクソンの発達理論			講義	4 h	
5. 現代社会のストレスとメンタルヘルスについて理解する		1. 社会とメンタルヘルス アルコール依存症、DV いじめ、虐待 空の巣症候群、燃え尽き症候群 2. ストレス、コーピング理論			講義	4 h	
6. 危機の考え方と介入方法について理解する		1. 危機理論 危機の特徴、危機介入			講義	4 h	
7. 精神に障害を持つ人の患者-看護師関係を理解する		1. ペプロウの対人関係論			講義	2 h	

		総括		1 h
			試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト		
出席状況		○	『新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健』	
試験等	提出物	○	岩崎弥生他 メヂカルフレンド社	
	レポート	○	『新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』	
	随時試験		岩崎弥生他 メヂカルフレンド社	
	試験	○	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会	
	平常の授業状況（授業態度）		□参考図書・資料・参考ホームページ	
	その他（ ）			

科目名	在宅看護技術			担当教員	近藤珠實		
単位数	1	時間	15	学年	1	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 在宅療養の場で、看護師として療養者・家族に接するためには、まず社会人として人とのかかわりに必要な一般常識を持つことが求められる。親もまわりの大人も誰も教え、躰られなくなった現在、この科目により何故そうするのかを知らせ、一般常識を正しく身につけてもらう必要がある。 正しいマナーを身につけることにより、相手に対し思いやりを持った表現ができるようになる。また、人間関係の基礎を身につけることにより在宅の場においても信頼関係を基盤とした援助・指導技術を実践することができるようになる。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 在宅で療養する対象と関わるために必要な一般常識を理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「躰」の精神 ・ 服装と態度 ・ 挨拶・言葉のマナー 				講義	2 h
2. 訪問のマナーを身につけることができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問のマナー ・ 共同生活上の基本マナー ・ 食事のマナー ・ お茶のマナー ・ 弔事・結婚式などでのマナー <p style="text-align: center;">*以上の項目に必要な演習すべて</p>				講義 演習	3 h 4 h
						試験	2 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況							
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）	○	プリント配付				
その他（演習）	○						

看護科 2年生

看護科 2020年度生カリキュラム

科目区分 履修 方法	科目 内容	教育内容	科目名	授業 形態	1年次		2年次		3年次		合計		
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎科目	基礎分野	基礎	論理学	演習	1	30					1	30	
			情報科学	演習	1	30					1	30	
			文学	講義	1	30					1	30	
			心理学	講義	1	30					1	30	
			コミュニケーション論	講義	1	15					1	15	
			環境生態学	講義	1	30					1	30	
			保健体育	演習	1	30					1	30	
			野外活動	演習	1	15					1	15	
			教育学	演習	1	30					1	30	
			英語	講義	1	30					1	30	
英会話	演習			1	30					1	30		
家族社会学	講義	1	30							1	30		
社会学	演習			1	30					1	30		
小計					11	300	2	60	0	0	13	360	
専門基礎分野	機能回復の促進	人体の構造と	解剖生理学Ⅰ(概論)	講義	1	15					1	15	
			解剖生理学Ⅱ(生命維持機能1)	講義	1	30					1	30	
			解剖生理学Ⅲ(生命維持機能2)	講義	1	30					1	30	
			解剖生理学Ⅳ(生命を活用する機能)	講義	1	30					1	30	
			解剖生理学Ⅴ(体の保護と種の保存機能)	講義	1	15					1	15	
			生化学	講義	1	30					1	30	
			栄養学	講義	1	30					1	30	
			病理学	講義	1	30					1	30	
			疾病と治療(循環・呼吸・血液)	講義	1	30					1	30	
			疾病と治療(消化器・代謝)	講義			1	30			1	30	
疾病と治療(運動・脳神経・眼)	講義	1	30					1	30				
疾病と治療(腎・泌尿・免疫)	講義	1	15					1	15				
疾病と治療(感覚器)	講義			1	15			1	15				
臨床薬理学	講義			1	30					1	30		
微生物学	講義	1	30							1	30		
医療概論	講義	1	15							1	15		
公衆衛生学	講義			1	30					1	30		
生命倫理	演習					1	15			1	15		
社会福祉	講義			1	30					1	30		
関係法規	講義					1	15			1	15		
生活科学	講義			1	15					1	15		
小計					12	300	7	180	2	30	21	510	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	講義	1	30					1	30		
		基本技術	演習	1	30					1	30		
		面接とフィジカルアセスメント	演習	1	30					1	30		
		生活を整える技術Ⅰ(環境・清潔・衣)	演習	1	30					1	30		
		生活を整える技術Ⅱ(運動・休息・食・排泄)	演習	1	30					1	30		
		診療・処置に伴う技術	演習	1	30					1	30		
		与薬の技術	演習			1	30					1	30
		看護過程展開の技術	演習	1	30					1	30		
		臨床看護総論	講義	1	30					1	30		
		臨床看護技術	演習			1	30					1	30
実習	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45						1	45		
	基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45						1	45		
	基礎看護学実習Ⅲ	実習			1	45				1	45		
小計					10	330	3	105	0	0	13	435	
専門分野Ⅱ	看護学	成人看護学概論	講義	1	30					1	30		
		健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30			1	30		
		侵襲的治療を受ける成人の看護	演習	1	30					1	30		
		セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習	1	30					1	30		
		セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習	1	30					1	30		
		緩和ケアを必要とする成人の看護	講義	1	30					1	30		
		老年看護学概論	講義	1	30					1	30		
		高齢者の生活と社会	講義	1	15					1	15		
		高齢者の日常生活援助	演習			1	30			1	30		
		高齢者の健康障害時の看護	講義	1	30					1	30		
小児看護学	小児看護学概論	講義	1	30					1	30			
	小児の健康障害	講義			1	15			1	15			
	小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30			1	30			
小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30			1	30				
母性看護学	母性看護学概論	講義	1	30					1	30			
	妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30			1	30			
	産褥期・新生児・ハイリスクの看護	演習	1	30					1	30			
	生殖機能障害のある患者の看護	講義	1	30					1	30			
精神看護学	精神看護学概論	講義	1	30					1	30			
	精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15			1	15			
	精神看護の基本技術	演習	1	30					1	30			
精神に障害を持つ人の生活と看護	演習			1	30			1	30				
臨床実習	成人看護学実習Ⅰ	実習			2	90				2	90		
	成人看護学実習Ⅱ	実習					2	90		2	90		
	成人看護学実習Ⅲ	実習					2	90		2	90		
	老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45				1	45		
	老年看護学実習Ⅱ	実習					3	135		3	135		
	小児看護学実習	実習					2	90		2	90		
	母性看護学実習	実習					2	90		2	90		
精神看護学実習	実習			2	90				2	90			
小計					6	165	21	675	11	495	38	1,335	
統合分野	在宅看護学	在宅看護概論	講義			1	15				1	15	
		在宅看護技術	演習	1	15					1	15		
		在宅療養者の健康状態に応じた看護	演習			1	30			1	30		
		在宅看護過程	演習			1	30			1	30		
		診療の補助技術における安全	演習					1	30		1	30	
		臨床看護の実践	演習					1	15		1	15	
		看護研究	演習			1	30			1	30		
		看護管理と国際協力	演習			1	30			1	30		
		在宅看護論実習	実習			2	90			2	90		
		統合実習	実習					2	90		2	90	
小計					1	15	3	75	8	285	12	375	
合計					40	1,110	36	1,095	21	810	97	3,015	

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、97単位(3,015時間以上)の修得が必要。

科目名	英会話			担当教員	松村純		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学その他の教育機関で、30年以上にわたり英語教育に従事してきた経験をもとに、看護師として役に立つ英語の教授を行う。				
□授業の目的							
1年次で学んだ基礎英語をもとにして、実際に医療現場で使うであろう様々な英語表現を身につけることを目的とする。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 医療現場で使われる英会話表現を習得する。		予約・受診・検査・入院・手術・症状の説明などに伴う英語表現を、ヒアリング、シャドウイング、リピートイングなどを通して習得する。				講義	29 h
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況			○	配布プリント			
試験等	提出物		○	□参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート		○				
	随時試験		○	配布プリント			
	試験		○				
	平常の授業状況（授業態度）		○				
その他（ ）							

科目名	社会学			担当教員	峯岸英雄		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
□授業の目的 医療・看護職を目指す学生に有益な「医療社会学」の修得を目指す。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
医療・福祉と人間の関係		1 プロローグ 2 健康と社会貢献（乳業の歴史） 3 労働問題と医療・福祉 4 医療としての、温泉と海水浴 5 健康と衛生装置（ラジオ体操と運動会） 6 災害と医療 7 人口問題と医療（前編） 8 人口問題と医療（後編） 9 医学者の軌跡に学ぶ（野口英世とヘボン） 10 国際医療（赤十字） 11 心と脳を巡る考察 12 高齢化社会 過去・現在・未来 13 社会福祉と社会事業 14 看護の歴史と展開 まとめ				講義	29 h
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況				なし			
試験等	提出物			□参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート						
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況（授業態度）						
	その他（課題）	○					

科目名	疾病と治療（消化器・代謝）			担当教員	五十嵐裕章・梅谷直亨(消化器) 秋山義隆(代謝)			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義	
実務経験教員	◎	実務経験内容	消化器内科 糖尿病・内分泌代謝内科 臨床医					
<p>□授業の目的</p> <p>病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。</p> <p>生体は、自分の身体を維持したり、活動したり、生態内部の恒常性を維持するためにエネルギー源や体成分原料となる物質を食物として取り入れて、さまざまな目的のために消費している。そこに消化機能、内分泌・代謝機能がさまざまな形で関与している。</p> <p>ここでは、消化器系、内分泌・代謝系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。</p>								
到達目標	内 容						授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。 2. 主な疾患の検査・治療について理解する。	<消化器> 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1) 食道癌 2) 胃潰瘍 3) 胃癌 4) 胆石 5) 膵炎 6) 肝炎、肝硬変、肝癌 7) 大腸癌 8) 潰瘍性大腸炎 9) クロウン病 10) イレウス 2. 疾病を診断する主な検査 1) X線検査 2) 血液検査 3) 内視鏡検査 4) 生検 3. 主な治療（内科） 1) 化学療法 2) 食道静脈瘤硬化療法 3) 消化性潰瘍の薬物療法 4) 保存的治療（イレウス・PTCD・ENBDチューブ） 5) 慢性肝炎インターフェロン療法 6) 食事療法 4. 手術療法 1) 外科的診断学 2) 手術手技の進歩 3) 手術療法の実際						講義	18h
	<内分泌・代謝系> 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1) バセドウ病 2) クッシング症候群 3) メタボリックシンドローム 4) 糖尿病 2. 疾病を診断する主な検査 1) 血液検査 2) 糖負荷試験 3) シンチグラフィ						講義	10h

		3. 主な治療 1) 食事療法 2) 薬物療法 3) 運動療法 総括		1 h
			試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト		
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器』		
試験等	提出物	金田智他 医学書院		
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝』		
	随時試験	黒江ゆり子他 医学書院		
	試験	○	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院	
	平常の授業状況 (授業態度)	□参考図書・資料・参考ホームページ		
その他 ()				

科目名	疾病と治療（運動・脳神経・眼）			担当教員	仲間秀幸（脳神経外科） 太田克也（脳神経内科） 吉岡太郎（運動器） 中島富美子（眼科）		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	脳神経外科・内科 整形外科 眼科 臨床医				
□授業の目的							
脳神経・運動器・感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。特に疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深める。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。 2. 主な症状の検査・治療について理解する。	<脳神経(内科)> 1. 主な症状と病態生理 ・高次機能障害 ・運動障害(失調、麻痺、不随運動) ・嚥下障害 ・頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア ・髄膜刺激症状 2. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1)脳梗塞 2)筋萎縮性側索硬化症(ALS) 3)筋無力症 4)パーキンソン病 5)髄膜炎 6)認知症 3. 疾病を診断する主な検査 1)CT 2)MRI 3)脳派 4)髄液検査 5)SPECTとPET 4. 主な治療 1)薬物療法、血漿交換療法 2)安静療法 3)リハビリテーション療法 (開始の時期・状態、合併症)					講義	6 h
	<脳神経(外科)> 1. 機能の変化と主な症状 意識障害、脳死 2. 代表的な疾患と手術療法 1)脳出血 2)頭部外傷 3)脳腫瘍 *術後の合併症と管理、観察点を含む					講義	8 h
	<運動器> 1. 主な症状と病態生理 疼痛 変形 神経麻痺 運動麻痺 循環障害 2. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1)骨折 2)椎間板ヘルニア 3)脊髄損傷					講義	10 h

		<p>4) 変形性膝関節症 5) 変形性股関節症</p> <p>6) 慢性関節リウマチ</p> <p>3. 疾患を診断する主な検査</p> <p>1) X線検査 2) 各種造影検査 3) 筋電図 4) 関節鏡</p> <p>4. 主な治療</p> <p>1) 手術療法 2) 安静療法(牽引、ギプス)</p> <p>3) リハビリテーション</p> <p><感覚器:眼></p> <p>1. 代表的疾患の病態生理と主な症状</p> <p>1) 白内障 2) 緑内障 3) 網膜剥離 4) 結膜炎・角膜炎</p> <p>5) 近視・遠視・乱視・斜視 6) 糖尿病性網膜症</p> <p>2. 疾患を診断する主な検査</p> <p>1) 視力検査 2) 視野検査 3) 色覚検査 4) 眼圧検査</p> <p>3. 主な治療</p> <p>1) 手術療法 2) 薬物療法</p> <p>総括</p>	講義	6 h
			試験	
□成績評価の方法		□使用テキスト		
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経』		
試験等	提出物	井手隆文他 医学書院		
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器』		
	随時試験	織田弘美他 医学書院		
	試験	○	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼』	
	平常の授業状況(授業態度)	大鹿哲郎他 医学書院		
その他()		□参考図書・資料・参考ホームページ なし		

科目名	疾病と治療（腎・泌尿・免疫）			担当教員	林松彦・須藤裕嗣（腎・泌尿器） 岡井隆広・森田寛（免疫）		
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	腎臓内科 リウマチ・膠原病 臨床医				
<p>授業の目的</p> <p>腎・泌尿器、免疫系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学ぶ。特に、疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深める。</p>							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。	<p><腎泌尿器></p> <p>1. 腎臓泌尿器の機能的変化と主な症状 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿に関連した症状、高血圧</p> <p>2. 代表的疾患の病態生理と主な症状</p> <p>1) 腎不全 2) 腎炎 3) ネフローゼ 4) 腎腫瘍 5) 膀胱腫瘍 6) 前立腺肥大 7) 尿路感染 8) 尿路結石</p>					講義	10 h (4 h)
	<p>3. 疾病を診断する主な検査</p> <p>1) 尿検査 2) 血液検査 3) X線検査（CT、MRI、シンチ） 4) エコー</p> <p>4. 主な治療</p> <p>1) 薬物療法 2) 手術療法 3) 砕石療法 4) 透析療法</p>						(6 h)
2. 主な疾患の検査・治療について理解する。	<p><免疫系></p> <p>1. アレルギー性疾患</p> <p>1) アレルギーとは 2) アレルギー疾患の発生機序 3) 代表的なアレルギー性疾患と検査法</p> <p>2. 自己免疫疾患</p> <p>1) 代表的疾患の病態整理と主な症状 (1) SLE 2) 疾病を診断する主な検査と治療の効果を見る検査 (1) 血液検査 3) 主な治療 (1) 薬物療法</p>					講義	4 h
						試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器』
試験等	提出物	大東貴志他 医学書院
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病
	随時試験	感染症』岩田健太郎他 医学書院
	試験	○ □参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	
	その他（ ）	

科目名	疾病と治療(感覚器:皮膚、歯・口腔)		担当教員	皆見春生(皮膚)・角田和之(歯・口腔)			
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学病院にて20年以上にわたり、臨床と研究を行っている。実臨床や診療経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的							
感覚器:口腔・皮膚に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。特に 疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深めてほしい。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。	<p><皮膚></p> <p>1. 代表的な症状</p> <p>発疹 掻痒感</p> <p>2. 代表的疾患の病態生理</p> <p>1) 湿疹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎 ・蕁麻疹、皮膚掻痒症 <p>2) 紅斑症</p> <p>3) 薬疹</p> <p>4) 皮膚真菌症</p> <p>5) ウィルス性皮膚疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯状疱疹 <p>6) 性感染症</p> <p>7) 母斑 8) 熱傷 9) 褥瘡</p>					講義	8 h
	<p><歯・口腔></p> <p>1. 代表的疾患の病態生理と主な症状</p> <p>1) 齶蝕</p> <p>2) 歯周病</p> <p>3) 口腔粘膜疾患</p> <p>4) 顎関節疾患</p> <p>5) 歯牙欠損</p> <p>2. 疾患を診断する主な検査</p> <p>1) X線写真検査</p> <p>2) 歯周病検査</p>					講義	6 h

		3) 唾液分泌検査 4) 味覚検査 3. 主な治療 1) 口腔内清掃の基本 2) う蝕の治療 3) 歯周病の治療 4) 歯牙欠損の治療 5) 粘膜疾患の治療 6) 顎関節疾患の治療 7) 口腔ケア		
			試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト		
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚』		
試験等	提出物		佐藤博子他 医学書院	
	レポート		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔』	
	随時試験		渋谷絹子他 医学書院	
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ	
	平常の授業状況（授業態度）			
	その他（ ）			

科目名	臨床薬理学			担当教員	原澤秀樹		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	薬剤師				
<p>□授業の目的</p> <p>医療の世界は私たちが考えている以上に速い速度で変化している。少子高齢化のなかで、いかに薬物療法の効果を上げることができるかが大切なことといえる。臨床薬理学は「薬物の人体における作用と動態を研究し、合理的薬物治療を確立するための科学」と定義されている。授業では薬理学の基礎知識、薬物療法の実際までを学ぶ。薬理学の基礎知識としては薬物の作用機序から薬理作用、そして薬物療法の実際としては疾患に対する薬物療法について学ぶ。また、薬物（医薬品）として臨床現場における医薬品の適正使用・管理のための必要な知識についても学ぶ。</p>							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 臨床における薬物療法について理解する。	1. 臨床薬理学総論			講義	14h		
	1) 薬物療法の意義と目的（その役割を説明できる） 2) 薬の作用機序と人体への影響について知る（その役割を説明できる） 3) 薬の投与方法について知る（その役割を説明できる） 4) 薬剤の体内での働き（吸収、分布、代謝、排泄）について知る（その役割を説明できる） 5) 薬の適正な使用のために（その役割を説明できる） ①医薬品と法律について知る ②医薬品の開発から市販後までのながれについて知る ③医薬品の種類（一般用医薬品、後発医薬品等）と取り扱いについて知る ④医薬品の安全な使用（相互作用、副作用等）について知る ⑤医薬品添付文書について知る			講義	14h		
2. 臨床における薬物の薬理作用と作用機序について理解する。	2. 臨床薬理学各論						
	1) 薬剤の薬理作用と作用機序（投与量・投与方法、副作用・中毒）について知る（その役割を説明できる） ①血糖値を下げる薬剤（インスリン、経口血糖降下薬） ②心臓の働きに作用する薬剤（カリウム、抗不整脈薬、強心剤） ③血圧を下げる薬（高血圧治療薬、血管拡張薬） ④血液凝固に関する薬（ヘパリン、ワルファリン、血小板薬凝固抑制薬） ⑤免疫機能を抑制する薬 ⑥抗がん薬 ⑦麻薬等、他 2) 薬の単位と濃度（その役割を説明できる）						
	3. 総括						
				試験	1h		

<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		<input type="checkbox"/> 使用テキスト
出席状況		『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』吉岡充弘他 医学書院
試験等	提出物	
	レポート	
	随時試験	
	試験	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	<input type="checkbox"/>
その他（ ）		

科目名	公衆衛生学			担当教員	足立知永子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員		実務経験内容					
□授業の目的 疾病を予防し、健康を増進するための方法と制度を理解することができる。							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 公衆衛生の概念、健康の概念について理解する。	1. 公衆衛生とは 公衆衛生の定義、憲法 25 条、 健康の定義、予防の概念、 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション			講義	2 h		
2. 疫学方法、健康指標を理解し、活用できるようにする。	2. 健康と環境、疫学的方法 ヒトの健康に影響する要因 スクリーニングテストの評価、 疫学的方法、臨床疫学とエビデンス			講義	4 h		
3. 健康に関連する環境要因について理解する。	3. 健康の指標 国勢調査、人口動態統計（出生、死亡） 平均寿命、健康寿命			講義	4 h		
4. 公衆衛生活動の行政の仕組みと内容を理解する。	国民生活基礎調査（有訴者率） 患者調査（受療率、入院期間）						
5. 健康づくりの方法について理解する	4. 感染症とその予防 病原体、感染経路、宿主の感受性、感染症法、予防接種法、 主要な感染症			講義	2 h		
	5. 食品保健と栄養 食品衛生法、食中毒、食品衛生管理 国民栄養の現状、栄養と健康			講義	2 h		
	6. 生活環境の保全 地球温暖化、大気汚染、酸性雨、オゾン層の破壊、 飲用水の安全、水質汚濁、 住環境の安全、放射線、廃棄物処理			講義 実習	3 h 2 h		
	7. 地域保健活動 地域保健法、保健所、市町村保健センター、医療サービス			講義	1 h		
	8. 母子保健 母子保健統計（出生体重、乳児死亡、死産率、周産期死亡率） 母子保健サービス			講義	2 h		

	9. 学校保健 学齢期の健康状態（学校保健統計）、 学校保健安全法、 保健管理（健康診断、健康相談、感染症予防、学校環境衛生）	講義	2 h
	10. 生活習慣病 生活習慣病の概念と現状 悪性新生物、脳血管疾患、心疾患 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満 骨粗鬆症、歯周病 健康日本 21（第 2 次）、健康増進法、生活習慣改善 高齢者医療確保法	講義	2 h
	11. 産業保健 労働基準法、労働安全衛生法、 労働災害、職業病、トータルヘルスプロモーションプラン	講義	2 h
	12. まとめ		1 h
		試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		<input type="checkbox"/> 使用テキスト	
出席状況		○ 『わかりやすい公衆衛生学』 清水忠彦・佐藤拓代 スーヴェルヒロカワ	
試験等	提出物	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会	
	レポート		
	随時試験		
	試験	○ <input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ	
	平常の授業状況（授業態度）	○	
その他（ ）	○		

科目名	社会福祉			担当教員	藍原義勝			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義	
実務経験教員	◎	実務経験内容	社会福祉士として医療法人が経営する在宅サービスに約 20 年間勤務。患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域づくりに 10 年以上活動している。事例・経験をもとに講義を行う。					
□授業の目的								
<ul style="list-style-type: none"> ・医療において社会的な支援が必要であることを理解する。 ・社会保障制度の基本的な内容を理解する。日本の社会保障制度の中心となる社会保険と社会福祉について理解する。 								
到達目標	内 容						授業形態と時間	
1. 社会福祉の変遷と現状について理解する。	1. なぜ看護教育で社会福祉を学ぶのか。 社会福祉とは なぜ学ぶのか どのように学ぶのか						講義	8 h
	2. 社会福祉の歴史 福祉史 貧困をどう捉えてきたか…イギリスの歴史から						講義	20 h
2. 社会保障制度の基本的内容を理解する。	3. 日本の福祉の歴史 社会福祉法制度の歴史的展開							
	4. わが国の社会保障・社会福祉の動向							
	5. 社会保障制度 社会保障の体系・社会保障の内容・社会保障給付費							
	6. 医療保障 健康保険と国民健康保険 保健診療のしくみ							
	7. 高齢者医療制度 社会福祉・高齢者福祉							
	8. 介護保障 介護保険制度のしくみ							
	9. 障害者福祉							
	10. 児童家庭福祉							
	11. 虐待							
	所得保障							
12. 年金保険制度								
13. 労働保険制度								
14. 公的扶助 生活保護制度のしくみ								
総括							1 h	
						試験	1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉』 福田素生他 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（授業出席回数）	○	

科目名	与薬の技術			担当教員	渡邊明子・浅川真里		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	渡邊：総合病院にて外科、内科看護師として勤務。看護師が薬物療法を安全かつ正確に実施できるように知識と技術を身に着けることができるように講義を行う。浅川：看護師として内科病棟で勤務。臨床経験をもとに、看護技術に必要な知識・技術が修得できるように講義と実習を行う。				
□授業の目的							
<p>診療を支える看護にとって、診療の補助技術を学び習得していくことが必要である。特に臨床の場面では看護師が薬物療法を安全かつ正確に実施できるように知識と技術を身につけていることが求められる。</p> <p>ここでは、薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する。</p>							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 与薬の目的と方法を理解し看護師の役割が理解できる。	1. 薬物療法の意義・目的			講義	4 h		
	2. 薬物療法における看護の役割 ・看護師の役割と法的責任						
	3. 薬物療法の基礎知識 ・薬物の種類 ・薬剤の吸収・排泄のメカニズム						
	4. 一般的な与薬の援助方法 ・アセスメント—計画—実施—評価 ・与薬時の医療事故			講義	2 h		
2. 与薬の方法に応じた援助過程を理解し、与薬の技術が習得できる	1. 内服薬の援助方法			校内実習			
	2. 直腸内与薬の援助方法			内服薬	2 h		
	3. 注射の種類別援助方法 ・筋肉内注射法			坐薬	2 h		
				筋肉内注射	8 h		
				講義	2 h		
				校内実習			
			点滴静脈内注射	4 h			
			持続点滴中の管理方法	4 h			
総括				1 h			
			試験	1 h			

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護	
試験等	提出物	○	技術Ⅱ』有田清子他 医学書院
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	臨床看護技術			担当教員	森居和子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	病棟勤務の経験をもとに看護に必要となる病態把握の方法や、看護技術について理解を深め、臨床実践につなげられるように講義・学内実習を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 基礎看護学や専門基礎科目で学んだ知識を用いて、健康障害を持つシナリオ（健康障害をもつ事例）のアセスメントを行い、必要な援助を導き、実施することができることを学習のねらいとする。 （学習方法） 既習の知識（専門基礎、基本技術、生活技術Ⅰ・Ⅱ、面接とフィジカルアセスメント、診療と処置に伴う看護）を活用し、シナリオを読み込み、疑問点をグループで討論したり調べたりしながら、推理・推察し、シナリオの身体に起こっていることをまとめていく。その上で看護を考え、実施する。事前学習として授業に必要な内容等を復習しておく。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 健康障害をもつ対象の状態をアセスメントすることができる	1. 対象の健康障害についてアセスメント シナリオの身体に何が起きているか シナリオ ・ 肺気腫・心筋梗塞					GW	10h
2. 対象に必要な看護を考えることができる	2. 対象の健康障害に応じた看護 ・シナリオの看護を考える ・グループ学習で必要な看護まで導き発表する。 3. シナリオのある場面に必要な援助 ・同じシナリオで、追加された場面に対して援助計画を立案し、実施する。					GW	10h
3. 対象の状態に応じて複数の援助技術を実施できる	4. 看護の実施 追加された場面に対して援助計画を立案、実施					演習	9h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況			『系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器』 医学書院				
試験等	提出物	○	『系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器』 医学書院				
	レポート		『系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術』 医学書院				
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（グループ学習）							

科目名	健康危機状況にある成人の看護		担当教員	佐々木元子・河村葉子			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	総合病院で看護師として、手術室・ICU勤務。成人期における健康危機状況を理解する。セルフケアが危機的状況にあるときの看護に焦点をあて、成人とその家族への看護方法について講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 成人期における危機状況を理解し、健康危機状況に陥ったことによりセルフケア困難な状況となった成人とその家族への看護方法について学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 様々な健康危機状況を理解する		1. 健康危機状況にある成人の特徴 2. 健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足			講義	2 h	
2. 健康危機状況にある成人のセルフケア不足に対する看護方法を理解する		1. 身体機能悪化への対応方法 2. 生活行動変更への支援 3. 健康危機状況における成人の苦痛と緩和方法 4. 心理的・精神的混乱への支援 5. 家族および重要他者の不安や負担へ支援			講義	8 h	
3. 積極的治療を必要とする状況と看護方法を理解する。		1. 救命救急治療を必要とする状況と看護 2. 積極的治療を必要とする状況と看護 1) 重症集中治療における看護 2) 症状と看護 ショック 不整脈			講義 校内実習 講義	6 h 2 h 4 h	
4. 健康危機状況にある成人の看護の実際を理解する		1. 健康危機状況にある成人の看護の実際 (事例) 熱傷患者の看護 総括			講義	6 h 1 h	
					試験	1 h	
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		○		『ナーシンググラフィカ 成人看護学 2 健康危機状況/セルフケアの再獲得』 安酸史子他 メディカ出版			
試験等	提出物	○		『系統看護学講座 別巻 救急看護学』 医学書院			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況 (授業態度)						
	その他 ()						

科目名	侵襲的治療を受ける成人の看護			担当教員	佐々木元子・田原美由紀		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	総合病院で看護師として、手術室・ICU勤務。侵襲的治療を受ける患者の特徴や合併症予防を含めた看護、周手術期の専門性や看護の役割援助方法について講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 近年、科学技術の発展・進歩に伴い低侵襲性の手術が行われるようになったが、手術による身体侵襲があることには変わりはない。そのような侵襲的治療を受ける患者の特徴や合併症予防を含めた看護、患者家族を支える看護について学び、周手術期の専門性や看護の役割・援助方法を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 周手術期の看護の役割が理解できる		1. 周手術期の看護 1) 周手術期看護の概論 (1) 周手術期の過程 (2) 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 (3) インフォームドコンセントにおける看護師の役割				講義	4 h
2. 侵襲的治療を受ける成人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、術後合併症予防を含めた看護方法が理解できる		1. 手術前の成人の看護 2. 手術中の成人の看護 3. 手術後の成人の看護 1) 手術後の回復を促進するための看護 2) 術後合併症予防と看護 3) 術後の継続看護				講義 講義	2 h 4 h
3. 侵襲的治療を受ける成人の看護の実際を理解できる		1. 侵襲的治療を受ける成人の看護の実際 総括				演習 事例展開： 胃がん	4 h
							1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		○		『ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護』 メディカ出版			
試験等	提出物	○		『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況(授業態度)						
その他()							

科目名	セルフケア再獲得に向けての成人の看護		担当教員	山田雅子・澗上里織			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師として臨床で10年間勤務。脳神経疾患看護の実践で得た知見をもとに中途障害者の看護の講義・演習を行う。				
□授業の目的 障害を受容する過程について理解を深め、障害を持ちながら生活を再構築する成人に必要な看護方法について学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. セルフケア低下状態にある成人の特徴を理解する		1. セルフケアの低下状態にある対象の身体・心理状態を理解する 1) セルフケアとは 2) 成人とセルフケア 3) 成人の中途障害者 4) 障害の受容 5) 生活基本行動 ADL IADL 6) 依存と自立			講義	8 h	
2. セルフケア再獲得を支援する方法を理解する		2. 障害のある患者の家族の精神的・社会的影響 1. セルフケア再獲得モデル 1) 生命維持レベルのセルフケア 2) 生活基本行動レベルのセルフケア 3) 社会生活レベルのセルフケア			講義	4 h	
		2. セルフケア再獲得のための各レベルにおけるアセスメントの視点 1) 対象把握のための評価尺度 2) アセスメントの視点と方向性 3) アセスメントの内容と方法			演習	4 h	
		3. セルフケアを再獲得するための人的システム・法的システム 1) 医療・福祉チーム 2) 機能回復の促進 3) リハビリテーション 4) ボランティア 5) 自立支援 6) 社会保障制度			講義	2 h	
		4. セルフケア再獲得のための方法 1) 生命維持レベルのセルフケア再獲得の支援方法 2) 生活基本行動レベルのセルフケア再獲得の支援方法 3) 社会生活レベルのセルフケア再獲得の支援方法			講義	4 h	

3. セルフケア再獲得を目指す看護の実際を理解する	1. 生命維持レベルのセルフケア再獲得への看護の実際	演習	4 h
	2. 生活基本行動レベルのセルフケア再獲得への看護の実際	脳梗塞事例 演習	
	3. 社会生活レベルのセルフケア再獲得への看護の実際	移乗方法の再獲得	2 h
	4. 日常生活動作の基本である移動動作の再獲得への看護の実際		1 h
	総括		
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況	○	『ナーシンググラフィカ 成人看護学2 健康危機状況/セルフケアの再獲得』安酸史子他編 メディカ出版	
試験等	提出物		『系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論』
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況 (授業態度)		
その他 ()			

科目名	セルフマネジメントを必要とする成人の看護		担当教員	山田雅子			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師として臨床で10年間勤務。臨床での実践、研究を通して得た知識・知見をもとに講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 成人が何らかの慢性的な病を持ったときに生活者として病と家庭生活、社会生活との折り合いをどのようにつけていくかが自分らしく健康に生きていくために必要である。その対象への看護として求められる、対象と医療者のパートナーシップに基づいた関わりを実践するために必要な考え方や知識、技術を学習する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. セルフマネジメントに必要な考え方を理解する		1)セルフマネジメントについて 2)成人期にある人への教育の考え方 3)エンパワーメント 4)自己効力理論と看護				講義	8 h
2. セルフマネジメントを必要とする対象を理解する		1)身体的特徴と健康問題 2)セルフマネジメントを必要とする人への健康の段階と看護の役割				講義	6 h
3. セルフマネジメントを推進する看護方法を理解する		1)対象理解 2)援助方法 3)評価				講義 演習	6 h 2 h
4. セルフマネジメントの援助の実際を理解する		1)セルフマネジメントを目指す看護の実際				講義	6 h
		総括					1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			<input type="checkbox"/> 使用テキスト				
出席状況			『ナーシンググラフィカ 成人看護学3 セルフマネジメント』				
試験等	提出物		メディカ出版				
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	緩和ケアを必要とする成人の看護		担当教員	森居和子			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	病棟勤務の経験や大学での学びを生かし、緩和ケアの現状や緩和ケアの看護について理解を深めることを目的として講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 がんと診断された時から終末期を迎えるまでの経過を理解し、状況に応じたアセスメントの視点を活用して対象と家族が抱く全人的苦痛を緩和するケアの方法について学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 緩和ケアを必要とする対象の理解を深め必要な援助が理解できる		1. 緩和ケアの概要：定義 2. 緩和ケアを必要とする人の特徴 3. 全人的痛みについて 4. 緩和ケアにおける症状マネジメント 5. 緩和ケアにおける意思決定支援 6. チーム医療			講義	10 h	
2. がん及び治療について理解し、がん患者の体験を理解できる		1. がん病態 2. がんの治療看護 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 3. がん患者の特徴 サバイバーシップ			講義	4 h	
3. 緩和ケアにおける患者家族支援について理解できる		1. 終末期の特徴と主なケア 2. スピリチュアルペインとスピリチュアルケア 3. 家族支援の必要性和支援方法			講義	2 h	
4. 緩和ケアを必要とする患者の看護を考える		1. 緩和ケアを必要とする患者の看護の実際 事例をもとにケアを考える 総括			演習	12 h	
						1 h	
					試験	1 h	
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 別巻 緩和ケア』 医学書院			
試験等	提出物	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	レポート						
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	高齢者の日常生活援助			担当教員	梶浦眞佐子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学病院の外科病棟・外来において10年以上勤務。臨床で得た知見をもとに講義を行う。				
□授業の目的							
加齢変化に伴っておこりやすい健康や日常生活への影響を理解し、生活機能を低下させないための看護を学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 加齢に伴うコミュニケーション能力の変化と看護が理解できる		I 高齢者のコミュニケーション 1. コミュニケーションのプロセス 2. 話す・聞く・見るの機能変化とケアの実際 3. 機能変化をもたらす生活への影響			講義	2 h	
2. 加齢に伴う排泄の変化と看護が理解できる		II 高齢者の排泄 1. 加齢に伴う排泄機能の変化 2. 排泄障害の特徴 3. 自立に向けた高齢者への排泄機能 4. 自立困難の高齢者への排泄援助			講義	2 h	
3. 加齢に伴う活動の変化と看護が理解できる		III 高齢者の活動 1. 加齢に伴う運動機能の変化 2. 機能変化による生活への影響 3. 日常生活動作への援助 4. 生活機能を低下させないための援助			演習	4 h	
4. 加齢に伴う休息の変化と看護が理解できる		IV 高齢者の生活リズム 1. 加齢に伴う生活リズムの変化 2. 高齢者の睡眠障害 3. 生活リズムを整える援助			講義	4 h	
5. 加齢に伴う食の変化と看護が理解できる		V 高齢者の食生活 1. 食べることの意義 2. 加齢に伴う食機能の変化 3. 高齢者の食事援助 4. 摂取・嚥下機能障害のある高齢者の援助			講義	4 h	
6. 加齢に伴う保護機能の変化と看護が理解できる		VI 高齢者の保護機能を保つための看護 1. 加齢に伴う保護機能の変化 2. 保護機能が低下した高齢者への清潔援助 3. 保護機能低下による健康への影響			演習	2 h	
					講義	4 h	

7. 高齢者の死への看護と家族への看護が理解できる	VII死を迎える高齢者の看護 1. 高齢者の終末期 2. 終末期医療と意思決定 3. 安らかな最期の過ごし方	講義	4 h
	統括		1 h
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』 北川公子他 医学書院	
試験等	提出物		
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
その他（ ）			

科目名	高齢者の健康障害時の看護			担当教員	岡本隆行・梶浦眞佐子・八木裕実子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	各担当者が看護師として高齢者へ関わった臨床経験等をふまえて授業を展開する。高齢者の健康障害時の特徴と看護について、実例等を活用して履修者の理解が深まるように支援する。				
□授業の目的 健康障害をもちながら治療を受ける高齢者と家族に対する援助及び看護を学習する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 高齢者に多い健康障害とその影響について理解できる		1) 高齢者に多い健康障害とその影響 2) 検査・処置・治療を受ける高齢者・家族への看護 ①高齢者の薬物動態の変化 ②薬物療法を受ける高齢者・家族の看護 パーキンソン病を持つ高齢者の薬物療法				講義	6 h
2. 認知機能障害を持つ高齢者の特徴と看護が理解できる		1) 認知症の病態と要因 2) 認知症高齢者の理解（身体面、心理面） 3) 認知症を抱える高齢者と家族の看護 QOL、コミュニケーションの図り方、日常生活自立支援、心身の活性化、家族への支援 4) 健康障害を抱えた認知症高齢者の看護 環境変化が与える影響、安全面への対応				講義	6 h
3. リハビリテーションが必要な高齢者・家族への看護が理解できる		1) 高齢者に対するリハビリテーションの意義 2) 加齢がリハビリテーションに与える影響と特徴 FIM 3) 大腿骨頸部骨折が高齢者や家族の生活に与える影響 大腿骨頸部骨折の原因・経過・治療 人工骨頭置換術後の影響とその看護（脱臼）				講義 演習	4 h
4. 安全面への対応が必要な高齢者への看護が理解できる		1) 高齢者の医療安全 2) 事故リスクの観察 3) 事故防止と身体拘束				講義	4 h
5. 手術療法が必要な高齢者・家族への看護が理解できる		1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 高齢者の周手術期の看護 3) 高齢者に多い疾患の手術療法と看護 ・前立腺肥大症の手術療法と看護 ・老人性白内障の手術療法と看護				講義	4 h

6. 指導が必要な高齢者・家族への看護が理解できる	1) 呼吸疾患を持った高齢者・家族への看護 ①呼吸器系の加齢変化 ②高齢者の慢性閉塞性疾患の特徴 ③閉塞性肺疾患を持ちながら生活していくための看護	講義	4 h
	総括		1 h
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』 北川公子他 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況 (授業態度)		
	その他 ()		

科目名	小児の健康障害			担当教員	勝盛宏		
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	小児科 臨床医				
□授業の目的 小児期特有の健康障害とその病態の特性・治療について学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 小児の健康障害の特徴を理解できる		小児期にみられる主な健康障害 (1) 免疫・感染症予防接種 (2) 染色体異常・先天異常・虐待 (3) 循環器疾患 川崎病・先天性心疾患・白血病 (4) 新生児消化器疾患 (5) アレルギー疾患・気管支喘息 食物アレルギー (6) 内分泌・代謝疾患 (糖尿病) (7) けいれん性疾患				講義	2 h
2. 小児期特有の健康障害を理解できる						講義	2 h
						講義	2 h
						講義	2 h
						講義	2 h
						講義	2 h
						講義	2 h
		試験	1 h				
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ：小児臨床看護学各論』 医学書院					
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況 (授業態度)						
その他 ()							

科目名	小児の発達段階に応じた看護			担当教員	保井理子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	総合病院の小児病棟（全科・NICU）、特別支援学校の子ども（小学生から高校生）の医療的ケア、看護学校での実習指導の幅広い経験から子どもと家族への看護を様々な視点から講義を行う。				
<p>□科目のねらい</p> <p>小児期は人が社会的存在として絶え間ない成長発達を遂げる時期である。このようなライフステージにある小児の健康の保持増進とともに健全な成長発達を支援するための援助を学ぶ。また小児に多い健康障害が成長発達に及ぼす影響を理解し小児及び家族への看護を学習する。</p>							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 小児各期の子どもと家族への看護を理解できる		1. 新生児・乳児期の生活の特徴と看護				講義	4 h
		1) 新生児・乳児の栄養 2) 新生児・乳児の睡眠					
		2. 幼児期の生活の特徴と看護				講義	4 h
		1) 幼児期の食事 2) 基本的生活習慣の獲得 3) 遊びと発達 4) 幼児の生活と安全					
		3. 学童期・思春期の生活の特徴と看護					
1) 学校生活の意義 2) 生活習慣病の予防とセルフケア							
2. 乳幼児の日常生活援助技術を理解できる		1. 乳幼児の日常生活援助技術				演習	2 h
		1) 乳児の抱き方 2) 清潔援助					
3. 病気・入院が小児・家族に与える影響を理解できる		1. 小児病棟の環境 2. 子どもの病気理解 3. 病気や入院に対する子どもの反応と子どもと家族への援助 4. 子どもの健康問題と看護				講義	2 h
4. 小児にみられる健康障害と特徴を理解できる		1. 小児にみられる急性症状と看護				講義	8 h
5. 検査・治療が小児に及ぼす影響と看護を理解できる		1. 小児看護技術の特徴と安全・安楽への援助				講義	4 h
		1) 小児とのコミュニケーション技術 発達段階に応じた説明と同意 2) 小児のフィジカルアセスメント 3) 診療の補助技術					
		総括					1 h
						試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ：小児看護学概論・小児臨床看護総論』	
試験等	提出物		医学書院
	レポート		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ：小児臨床看護各論』 医学書院
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（グループワーク参加状況）	○	

科目名	小児の健康状態に応じた看護			担当教員	長原恵子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学病院小児外科病棟で小児看護を6年間経験後、地域母子保健事業（乳幼児健診・新生児訪問）に携わり、現在は小児病院で肝移植を受ける小児と家族のケア面談に従事。実例経験を元に講義を行う。				
□授業の目的 さまざまな健康状態にある小児と家族の看護を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 慢性的に経過する小児と家族の看護を理解できる		1. 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と看護 1) 長期的治療を要する小児の発達とセルフケア 2) 病気の経過の特徴と看護 3) 学習支援と復学支援				講義	10 h
2. 予後不良・終末期にある小児と家族の看護を理解できる		1. 子どもの悪性新生物・小児がん 1) 小児がん治療の特徴と看護 2) サバイバーとキャリアオーバー 2. 終末期にある子どもと家族 グリーフケア 1) 小児の死と家族の反応と援助 2) 家族、きょうだい児への看護				講義	6 h
3. 手術を受ける小児と家族の看護を理解できる		1. 子どもの手術の特徴と看護 1) 発達段階と手術の看護 2) 手術を受ける小児の看護				講義	4 h
4. 胎内で影響を受け出生した小児の看護を理解できる		1. 低出生体重児の看護 2. 先天的な疾患をもつ小児と家族の看護				講義	4 h
5. 心身障害のある小児と家族の看護を理解できる		1. 障害のある子どもと家族の看護 1) 障害受容・crisis period 2) 障害児の就学				講義	2 h
6. 在宅療養を受ける小児の看護を理解できる		1. 小児在宅看護の現状と問題点 1) 在宅看護を受ける子どもと家族 2) 医療的ケアと他職種との連携				講義	2 h
		総括					1 h
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』 医学書院					
試験等	提出物						
	レポート	○	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』 医学書院				
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）		□参考図書・資料・参考ホームページ なし					

科目名	妊娠期・分娩期の看護			担当教員	白木多実		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	助産師として総合病院産婦人科、個人産院に計8年間勤務。テキストに沿った内容に事例・経験を織り込み、“想像できる・実感できる母性看護学”をモットーに講義を行う。				
□授業の目的 妊娠、分娩期にある人は病気ではなく生理的過程にあることをまず理解し、その上で予防的看護の必要性を学ぶ。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
【 妊娠期 】		1. 妊娠の生理と経過			講義	4 h	
1. 妊娠の経過と胎児の発育について理解する		2. 妊婦及び胎児の健康診査 3. 妊婦の診察と介助					
2. 妊婦の心理・社会について理解する		1. 妊婦の心理的特長 2. 妊婦と家族および社会			講義	4 h	
3. 妊婦の日常生活とセルフケアについて理解する		1. 妊婦の健康管理と保健指導 2. 妊娠中の日常生活の過ごし方と注意点 3. 妊産婦の食事指導 4. マイナートラブルと保健指導			講義 演習 (妊婦の保健指導)	4 h 4 h	
4. 出産・育児の準備について理解する		1. 分娩準備教育 2. 妊娠中の乳房の手当て方法					
5. 親役割の準備について理解する		1. 生活における変化 2. 家族役割の変化			講義	2 h	
【 分娩期 】		1. 分娩の生理と経過			講義	6 h	
1. 分娩の経過と胎児の健康状態について理解する		2. 産婦と胎児の健康状態評価					
2. 産婦と家族の心理について理解する		1. 母親役割獲得準備状態について 2. 産婦と家族の看護			講義	2 h	
3. 分娩の進行状態に合わせた看護について理解する		1. 分娩の経過と看護 1) 入院時の看護 2) 分娩第Ⅰ期の看護 3) 分娩第Ⅱ期の看護 4) 分娩第Ⅲ期(Ⅳ期)の看護					
		総括			総括	2 h	
					まとめ	1 h	
					試験	1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論』	
試験等	提出物	○	森恵美他 医学書院
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（演習の成果）	○	

科目名	産褥期・新生児期の看護			担当教員	白木多実		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	助産師として総合病院産婦人科、個人産院に計8年間勤務。テキストに沿った内容に実例・経験を織り込み、“想像できる・実感できる母性看護学”をモットーに講義を行う。				
□授業の目的 産褥期・新生児期にある対象が正常に経過するために必要な看護を学ぶ。 健康から逸脱した周産期にある対象の看護を理解する。							
到達目標		内 容		授業形態と時間			
【 産褥期 】							
1. 産褥の経過について理解する		1. 産褥の生理と経過 1) 産褥期の身体的変化 2) 産褥期の心理・社会的変化		講義		4 h	
2. 褥婦の日常生活とセルフケアを理解する		1. 褥婦の健康状態アセスメント		講義			
3. 家族関係形成への援助を理解する		1. 児との関係確立への看護 2. 育児技術にかかわる看護 3. 家族関係再構築への看護				4 h	
4. 褥婦の看護の実際を理解する		1. 産褥が正常に経過するための看護		演習（ペーパー ペイシエントで SCP 作成） 高年初産婦・若 年初産婦の ・復古現象 ・乳汁分泌 ・母子関係 ・産褥感染		10 h	
【 新生児期 】							
1. 新生児の看護を理解する		1. 新生児とは 2. 新生児の形態、機能 3. 健康状態のアセスメント・看護 4. 出生直後の新生児の看護		講義		8 h	
		総括		総括		2 h	
				まとめ		1 h	
				試験		1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論』	
試験等	提出物	○	森恵美他 医学書院
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（演習の成果）	○	

科目名	生殖機能障害のある患者の看護		担当教員	小林裕子			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	助産師・看護師として臨床15年以上勤務。看護学校・助産師学校教員として20年教育に携わった経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的 女性生殖器疾患の特徴を理解し、対象の健康障害をアセスメントし必要な看護を理解する。また、生殖機能障害が性役割、女性の生き方、日常生活に及ぼす影響を理解し、看護者としての支援方法を学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 女性生殖器の構造・機能と主な症状を理解する。		1. 女性生殖器の構造・機能 2. 性ホルモンと卵巣・子宮の周期性変化 性ホルモンの作用とフィードバック機能				講義	2 h
2. 女性生殖器の主な疾患と検査・治療を理解する		1. 診察方法と主な検査 2. 主な疾患と検査・治療法 (1) 膣疾患 (2) 子宮筋腫・子宮がん 病態・検査・広汎性子宮全摘術 (3) 子宮外妊娠・卵巣腫瘍 ダグラス窩穿刺・化学療法 (4) 月経異常 (5) 更年期障害 … ホルモン療法 (6) 不妊症・不育症 (7) 性感染症				講義	8 h
3. ハイリスク状況にある妊産婦の病態・検査・治療を理解する		1. 切迫流早産 2. 前期破水 3. 胎盤異常 4. 血液不適合妊娠 5. 妊娠糖尿病 6. 心疾患合併妊娠				講義	4 h
4. 女性生殖器疾患の主な症状と診療時の看護を理解する		1. 診察時の看護の基本 2. 性器出血・下腹部痛・帯下、痒痒感の看護 3. 乳がんの看護				講義	4 h
5. 手術療法を受ける患者の看護を理解する。		1. 広汎性子宮全摘術を受ける患者の看護 2. 乳房の手術を受ける患者の看護				講義	4 h 2 h
6. 性感染症の看護を理解する		1. 性感染症の予防と指導				講義	4 h
						試験	2 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』	
試験等	提出物		池田正他 医学書院
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	精神に障害を持つ人の理解			担当教員	大地武		
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	精神診療科 臨床医				
□授業の目的 精神障害の現れ方と特徴と主な精神病の原因、診断、治療について理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 精神障害の特徴を理解する		1. 精神障害者のイメージ				講義	2 h
		2. 精神症状				講義	4 h
		・知覚の障害 ・思考の障害					
		・感情の障害 ・意欲・行動の障害					
		・意識障害 ・記憶障害					
2. 精神疾患を理解する		3. 主な疾患				講義	6 h
		1) 統合失調症					
		2) 躁うつ病					
		3) 神経症、PTSD					
		4) 認知症					
		5) アルコール、薬物依存					
		6) てんかん					
		7) 人格障害					
		8) 知的障害、発達障害					
3. 精神疾患の治療の特徴を理解する		4. 主な精神科治療と検査				講義	2 h
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況				『新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』 岩崎弥生他 メヂカルフレンド社			
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験	○		□参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況（授業態度）						
	その他（ ）						

科目名	精神看護の基本技術			担当教員	岡野全子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	教員経験の中で約20年間精神看護学実習で学生を指導する中で、臨床看護師の精神に障害を持つ人の観察方法や生活の整え方、人々としてのかかわり方、倫理的視点などを学ぶ機会を得てきた。そこで身につけた知識をもとに看護の考え方を講義する。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 自己理解から他者理解を深め、患者―看護師関係の成立、発展させるためのカウンセリングの基本である受容・傾聴・共感について体験を通して学ぶ。 さらに精神の健康問題をもつ患者の看護展開を学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 看護場面の再構成を行い自己理解、他者理解について理解する。		1. 再構成の意義と活用方法 2. プロセスレコードの記述 3. 援助の質を高めるための検討 自己理解、他者理解			講義	2 h	
2. カウンセリングの基本姿勢である受容・傾聴・共感について体験を通して理解する。		1. カウンセリングの基礎理論 2. カウンセリングの基礎技法			講義	10 h	
3. カウンセリング技法を活用したコミュニケーションについての理解を深める		1. 初回面接での聴き方、応え方 2. 初回面接の実際 ロールプレーを通して考える 3. 医療現場でのコミュニケーション					
4. 精神の健康問題を持つ患者の看護を展開する。		1. 統合失調症患者の看護の展開 2. アルコール依存症患者の看護			講義	6 h	
					演習	6 h	
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法 出席状況				<input type="checkbox"/> 使用テキスト 『新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健』 岩崎弥生他 メヂカルフレンド社 『新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』 岩崎弥生他 メヂカルフレンド社			
試験等	提出物	○					
	レポート	○					
	随時試験						
	試験		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）	○					
その他（ ）							

科目名	精神に障害を持つ人の生活と看護			担当教員	茅根寛子・小倉圭介・関川薫・棚倉涼介		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	精神科病院において精神看護専門看護師として勤務。その経験を踏まえ、実際の病院臨床の現状や事例を活用した講義を行う。				
□授業の目的							
①精神の健康問題としてどのような問題があるか							
②精神の健康問題が存在するときに、特に注意すべき状態とはどのようなものか							
③精神の健康問題に対する看護とは何か							
これらについて考え、理解を深める							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 精神の健康問題について理解する		1. 精神障害を持つ人の理解と看護の基本 1) 精神障害者の理解 2. 看護の倫理と人権擁護 1) 精神医療におけるアドボカシー 2) 隔離・拘束について 3. 入院環境とケアの視点 1) 治療環境について 2) 施設症、治療共同体 4. 精神保健活動とリハビリテーション 1) 地域における看護師の役割 2) 訪問看護				講義	4 h
2. 精神の健康障害のある人の生活障害に応じた看護について理解する		1. 精神科看護におけるケアの方法 1) コミュニケーションへの援助 SST、治療的かわり方 2) 日常生活行動の援助 入院患者の日常生活 セルフケアレベルの生活背景 3) 服薬治療に関わる援助 薬物療法をめぐるインフォームドコンセント				講義 演習	4 h 4 h
3. 精神に健康障害のある人の健康段階に応じた看護を理解する		1. 主な疾患と看護 1) 統合失調症患者の看護 2) 気分・感情障害患者の看護 3) パーソナリティ障害患者の看護 4) アルコール・薬物依存症患者の看護 5) 発達障害患者の看護 6) 神経症患者の看護 上記疾患に特有な症状の看護と薬物療法を講義 総括				講義	16 h
							1 h
						試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健』	
試験等	提出物		岩崎弥生他 メヂカルフレンド社
	レポート		『新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』
	随時試験		岩崎弥生他 メヂカルフレンド社
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（ ）		

科目名	在宅看護概論			担当教員	佐藤博子		
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	在宅看護の中でも訪問看護を17年行った経験から、様々な年齢層や在宅ホスピス緩和ケア利用者・家族の実例を基に講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 地域で生活する療養者とその家族について理解し、生活を支えるための社会資源について理解する。 また、在宅看護の概念を踏まえ、訪問看護の機能と役割を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 在宅ケアニーズとその背景および在宅看護の必要性と目的について理解する		1. 社会の変化と在宅看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅看護の必要性 ・ 在宅看護の役割 ・ 在宅看護の基本理念 ノーマライゼーション・ヘルスプロモーション・アドホックシー				講義	4 h
2. 在宅看護の対象と必要な援助について理解する		1. 在宅看護の対象と必要な援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 健康段階からみた対象 2) 発達段階からみた対象 3) ケアの単位としての家族 2. 継続看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の場と在宅をつなぐ看護 				講義	2 h
3. 在宅看護を支える社会資源とその利用について理解する		1. 在宅看護に必要な社会資源 <ul style="list-style-type: none"> 1) 介護保険法 2) ケアマネジメント 3) チームアプローチ 				講義	4 h
4. 訪問看護の機能と役割について理解する		1. 訪問看護の機能と役割 <ul style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護のシステム 2) 生活の場における看護 3) 訪問看護の基本 				講義	2 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』			
試験等	提出物		秋山正子他 医学書院				
	レポート	○	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会				
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	在宅療養者の健康状態に応じた看護		担当教員	比留間絵美			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	訪問看護師として勤務した経験をもとに、療養者と在宅看護の実例をふまえた講義や演習を行う。				
□授業の目的							
在宅看護の基本に基づき、さまざまな健康状態にある療養者に合わせた生活支援技術（日常生活援助技術、医療処置技術）を学ぶ。また、在宅におけるエンドオブライフケアについて理解する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 安心した在宅生活に必要な看護を理解する		1. 安心した生活の保障 ・24時間の連絡・支援体制 ・感染管理 ・リスクマネジメント			講義		2 h
2. 在宅における生活援助技術を理解する		2. 在宅における生活支援技術 1) 生活環境の調整 ・安全で快適な生活環境と居住環境の調整 ・社会資源の活用と工夫 2) ①活動・移動・休息 ・在宅における活動・睡眠 ・移動・移乗への援助 ②褥瘡の予防と援助 3) 排泄 ・自立と気持ちよさを考えた排泄の援助 ・排泄の援助：尿道留置カテーテル・排便 4) ①栄養・食事 ・経管栄養法とその管理：胃瘻・腸瘻 ・中心静脈栄養法とその管理 ②経管栄養法 5) ①清潔 ・在宅における清潔ケア ・在宅における安全で快適な入浴 ②入浴の援助 6) ①呼吸 ・在宅における酸素療法と人工呼吸療法 ②在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法			講義 グループワーク		1 2 h
					演習		2 h
					演習		2 h
					演習		2 h
					演習		2 h

3. 在宅におけるエンドオブ ライフケアを理解する	3. エンドオブライフケア ・在宅における終末期の援助 ・家族への支援：グリーフケア ・アドバンス・ケア・プランニング 4. 総括	講義	6 h
		グループワーク	
			1 h
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 秋山正子他 医学書院	
試験等	提出物	○	
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（グループワーク参加状況）	○	

科目名	在宅看護過程			担当教員	坂野朋未		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
□授業の目的							
在宅で療養する人々の特徴を理解し、療養者および家族が在宅療養を継続させるためのセルフケア支援の実際、教育方法について事例展開を通して学ぶ。							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 在宅医療・在宅ケア推進の社会的背景と法的基盤を知る	1. 在宅医療・在宅ケア推進の社会的背景 超高齢化の進行／社会保障費の増加／国民の療養の場に対する意識の変化			講義	10h		
	2. 在宅医療・看護に関する法的枠組みを知る 老人保健法／健康保険法／介護保険法						
2. 地域で暮らす療養者・家族を理解する	3. 地域の概要・特徴の理解						
	4. 在宅医療を必要とする療養者・家族の理解 年齢・疾患・障害・療養状態から見た特徴						
3. 訪問看護開始までの調整を理解する	5. 家族力のアセスメント 家族の健康問題、生活への影響 在宅療養者の権利保障						
	6. 退院支援・退院調整の仕組みについて理解する						
4. 訪問看護の役割を理解する	7. ケアマネジメントの必要性とプロセス			講義	10h		
	8. 訪問看護ステーションの現状						
5. 患者・家族の指導について事例展開を通して理解する	9. 訪問看護の機能・訪問看護師の役割						
	10. 訪問看護の実際 要介護高齢者／認知症をもつ人／小児 在宅ターミナル患者への支援						
	11. 家族への支援と指導						
	12. 在宅看護過程の展開 1) 看護過程の展開の視点 2) 情報収集の視点とアセスメント 3) 問題解決に向けた看護計画の立案 4) 実施のポイント 5) 評価のポイント						
	13. 成果発表			講義 演習	8h		
	14. 総括				1h		
				試験	1h		

<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		<input type="checkbox"/> 使用テキスト	
出席状況		○ 『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 秋山正子他 医学書院	
試験等	提出物		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	診療の補助技術における安全		担当教員	瀬藤奈美			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護師として国立療養所及び赤十字病院に20年間勤務。実務経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的							
医療システムの中の危険因子を知り、診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を修得できる。また演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を身につけることができる。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 医療安全を学ぶ目的を理解する		1. 医療安全を学ぶ目的 2. 医療事故と看護業務 3. 事故防止の考え方、リスクの把握 4. 看護者の倫理観と倫理的判断 5. リスクマネジメントの実際 1) 医療事故の発生要因 2) ハインリッヒの法則 3) インシデント・レポート			講義	4 h	
2. 与薬の危険因子を認識し事故防止について理解する		1. 注射業務プロセスからみた事故防止 2. 危険薬剤からみた事故防止 ○血液製剤 インスリン 等 3. 事故防止に向けた状況判断と実施 ○読みにくい処方箋・点滴準備中の中断 ○輸液ポンプのアラーム・薬液量の間違い 等 4. 事故発生時の対処 5. 針刺し事故防止			講義	8 h	
					演習	8 h	
3. チューブ類挿入中のトラブルを予測し安全な管理を理解する		1. チューブ・ドレーンの種類と挿入目的 2. チューブ類挿入中のトラブルと対処 ○膀胱留置カテーテル・酸素吸入・経管栄養 等 3. チューブ類を挿入している人の事故防止と援助の実際			講義	2 h	
					演習	4 h	
4. 医療における感染対策の現状を理解する		1. 感染症の今 2. 施設における感染症対策 総括			講義	2 h	
					1 h		
					試験	1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全』 川村治子 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

看護科 3年生

科目名	生命倫理			担当教員	川上祐美		
単位数	1	時間	15	学年	3	授業形態	講義
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 保健・医療・福祉を生命倫理<バイオエシックス>の視点からとらえ、現代の諸問題に対処し得る思考と感性の研鑽によって、豊かな人間観といのちについての深い洞察力が養われることをめざす。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 多角的な視点で考える。		生命医科学技術の急速な進展により、誕生する前から死に際してまで人生の様々な場面で、いのちをめぐる選択がいやおうなしに迫られる時代が訪れている。しかし、それら個々の事象のはらむ倫理的問題の検討は十分になされておらず、その抛り所を模索しつつある。 看護師が単に医療の行使者であるだけでなく、よりよい医療とは何かについて常に考え、社会の中で提言していくことのできる資質を身につけることを期待する。 1. いのちを考える ～現代の生老病死と医療～ バイオエシックスの歴史と変遷 戦争と臨床研究の倫理 2. 死をめぐる自己決定と事前指示 ターミナルケアの実際 ～痛みと死の意味～ 3. 尊厳死・安楽死 ～人間らしい死とは～ ケーススタディ：オランダの事例から 4. 臓器移植と脳死 ～生命の資源化とその配分～ ケーススタディ：子どもの渡航移植 5. 生殖医療と優生思想 ～選別されるいのち～ ケーススタディ：障害と出生前診断 6. 医療過誤・薬害 ～健康とはなにか～ 国家政策と社会医療の功罪 7. 生命観の多様性と幸福 ケーススタディ：宗教的事由による輸血拒否				講義	14h
2. 論理的に表現する。						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況			○ 『系統看護学講座 別巻 看護倫理』 医学書院				
試験等	提出物						
	レポート		○				
	随時試験						
	試験		○ <input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）		○ 『ケーススタディ いのちと向き合う看護と倫理				
その他（ ）		ー受精から終末期までー』 木村利人 他人間と歴史社 2010					

科目名	関係法規			担当教員	吉野雅文		
単位数	1	時間	15	学年	3	授業形態	講義
実務経験教員	◎	実務経験内容	保健医療福祉行政に40年近くにわたり従事。これらの実務経験を踏まえ、看護職員として不可欠な各法の目的、内容を講義する。				
□授業の目的 法の基礎知識と保健医療福祉関係法規を学び、医療従事者としての業務と責任について理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 医療従事者としての業務と責任について理解する。		1. 法の概念、衛生法の概念、厚生行政のしくみ 2. 看護法－保健師助産師看護師法、看護師等人材確保促進法 3. 医事法－医療法、医師法など医療福祉関係資格法、臓器移植法等 4. 保健衛生法－地域保健法、健康増進法、精神保健福祉法、母子保健法、難病法、感染症法、予防接種法、食品衛生法等 5. 薬務法－医薬品・医療機器等法、麻薬向精神薬取締法等 6. 環境衛生法－生活衛生関係営業法、水道法等 7. 社会保険法－健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法、国民年金法、厚生年金法等 8. 福祉法－生活保護法、成年後見制度、児童福祉法、老人福祉法、障害者基本法、障害者総合支援法、虐待防止法（児童、高齢者、障害者）等 9. 労働法と社会基盤整備－労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、育児介護休業法、男女雇用機会均等法、配偶者暴力防止法、個人情報保護法等 10. 環境法－環境基本法、廃棄物処理法等				講義	14h
						試験	1h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況		『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令』森山幹夫 医学書院 第53版					
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）	『国民衛生の動向』2020/2021					
その他（ ）							

科目名	臨床看護の実践			担当教員	岡野全子		
単位数	1	時間	15	学年	3	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	12年間、外科、内科病棟で勤務。その経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的 臨床に近い状況下を想定し、総合的な判断・対応を体験することにより、臨床での看護業務遂行の実際を学ぶ。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 科目のねらい・目的・演習方法を理解する		1. 「臨床看護の実践」のねらい・目的 2. 臨床看護の現状と実際 3. 演習の進め方 事例の紹介・評価方法			講義	2 h	
2. 二人の患者の援助計画を立案し、援助の優先順位を判断した行動計画が立案できる。		1. 二人の患者に実施すべき援助計画の立案 2. 援助の優先順位をふまえた計画立案			演習	2 h	
3. 計画に基づき、二人の患者への援助を計画的に実施できる。		1. 二人の患者への援助の実際 安全・安楽の確保 自立度にあわせた援助の実施 援助の効率性 2. 自己の実践能力に応じた対処方法の決定 3. チームメンバーとの連携			演習	4 h	
4. その場の割り込み状況に対して判断し、患者各人に必要な援助が実施できる		1. 割り込み状況への対処 予期しない患者の反応 突発的な事態 時間の切迫			演習	4 h	
5. グループで立案・実践した看護をふりかえる		1. 評価・修正 計画の妥当性 割り込み状況への対応 2. 評価・修正後の計画をもとに実施する			演習	2 h	
					試験	1 h	

<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		<input type="checkbox"/> 使用テキスト	
出席状況		なし	
	○		
試験等	提出物		○
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（ ）		

科目名	看護研究			担当教員	岡本隆行		
単位数	1	時間	30	学年	3	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	大学院修了、論文作成、学会発表等の経験に基づき、専門学校生に必要な範囲で授業を展開し、論文作成を支援する。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 看護研究の意義、方法の基礎について理解する。また、臨地実習を通して見出した疑問を取りあげ、研究する方法を理解する。そして研究をまとめ、発表することで論理的思考や研究的態度などについて養う。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 看護研究の概要を理解する。		1. 研究とは 2. 看護研究とは				講義	2 h
2. 看護研究の進め方を理解する。		1. 看護研究の構成 2. 研究計画書とは				講義	2 h
3. 研究論文を読解する。		1. 文献検索 2. 文献検討				講義 演習	2 h 2 h
4. 事例研究を実施し、研究論文としてまとめ、発表する。		1. 事例研究とは 2. 事例研究の進め方 3. 事例研究論文の作成 4. 事例研究の報告				講義 演習	2 h 1 8 h
		総括					1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『新版看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方』			
試験等	提出物	○	松本孚, 森田夏実編 照林社				
	レポート	○	『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論』				
	随時試験		茂野香おる他 医学書院				
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況 (授業態度)		『看護研究』 D.F. ポーリット・B.P. ハングラー 医学書院				
	その他 (研究論文の取り組み方、発表)	○	『ナースのための質的研究入門』 I.ホロウェイ・S.ウィラー 医学書院 『APA 論文作成マニュアル』 アメリカ心理学会(APA) 医学書院 『黒田裕子の看護研究 Step by Step』 黒田裕子 医学書院 『日本看護協会』 www.nurse.or.jp/ 『厚生労働省』 www.mhlw.go.jp/				

科目名	看護管理と国際協力			担当教員	岸野真由美・中西佳美・伊東由美		
単位数	1	時間	30	学年	3	授業形態	講義・演習
実務経験教員	◎	実務経験内容	看護管理者実務経験 赤十字国際・災害救援経験				
<p>□授業の目的</p> <p>看護管理について基礎的知識を習得し、チーム医療のなかで看護師のはたす役割を探求する。その上で世界の中で看護職としてできる社会貢献・国際貢献について理解を深めることができる。</p> <p>特に国内外で前触れもなくやってくる災害では、専門職として人々の健康と生活向上に向けた社会的支援を行うことを求められている。災害看護の実際と災害直後から支援できる基礎知識を学ぶ。</p>							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 組織における看護管理について理解できる。		1. 看護サービスとチーム医療 2. 看護管理の基本的知識 1) 看護管理の目的と方法 2) 病院における管理システム ・ 安全管理 ・ 情報管理 ・ 業務管理 ・ 薬剤などの管理 ・ 災害、防災管理 ・ 物品管理 ・ コスト管理 3) 組織とリーダーシップ 3. 看護の質の保障				講義	6 h
2. 医療活動の国際協力について理解できる。		1. 世界の健康問題の現状 2. 国際看護の基本理念 3. 国際協力のしくみ				講義	4 h
3. 災害看護の概念を理解し、災害各期の看護活動を理解できる。		1. 災害看護とは 2. 災害時の社会制度 (法、救援体制、救助活動) 3. 災害サイクルからみた看護ケア ①災害直後の被災者へのケア ②災害復興期の被災者へのケア 4. 災害と心のケア 5. 災害時の看護ケアの実際				講義	6 h
4. 自己の看護観を文章化する。		1. 看護観とは 2. 私のめざす看護				演習	4 h
		総括					1 h
						試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論』	
試験等	提出物		茂野香おる他 医学書院
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

2021 SYLLABUS 講義要項

発行日 2021年4月1日

発行人 橋本 正樹

発行所 学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17